

## 七一、海外の各支分部へ

——民國六年——

支分部各同志均鑒

敬啓、各地より屢來翰有り。任期満了の職員を改選すべきや否やにつきて問合せ來りたるが、本黨の改組近きに在るを以つて、此の際若し逐一改選するに於ては却つて煩瑣なるにより、各支分部の現任職員は任期満了するも依然舊通り事務を執り、改組の日に至つて一律に解任する様取計はれたし。但本書到着以前に已に選舉決定せる新任職員有らば、其の新職員に於て事務を引繼ぎて處理せられたし。茲に公安を請ふ。孫文。

378

## 七二、陳英士君の安葬を通告す

——民國六年——

支分部各同志均鑒

敬啓、陳君英士は功業彪炳として志行卓絶せるが、去歲凶人の爲に謀害せられ、冤痛未だ伸び

ず。現に黨内より贖金して過宜安葬せんとす。而して之の爲の費用を豫め計るに尙一萬元を要す。仍つて同志に於て力を盡して蒐集し、纏めて先の資金調達局長に送り、上海に送金して用に供せしめられんことを望む。葬期は五月十八日に決定する考なるを以つて、時期已に切迫し居る譯なり。本書到着次第、速に調達に當り、送金して送葬の資たらしめんことを切望す。凡そ同志に屬する以上俱に救恤の誼あり、矧んや陳君は我が黨唯一の柱石たりし者なるに於てをや。賻助を吝まざらんことを望む。御回示を待つ。竝に大安を請ふ。孫文、六年四月。

## 七三、重ねて李村農に復して外債借入れの事を論ず

——民國六年——

村農君鑒

君を能く教を受け得る者と思考したるを以つて、來書の件に關し先日批判答覆の書を寄せ、覺えず之を言ひて長きに過ぎたるが、今又來書に接して閱讀するに、却つて余の誤解を責めあり。偶更に其の一知半解の實を證明せり。君の爲さんと欲する所の件は今日の中國の人心を以つてして

379



は必ず成就せざるべく、其の成らざるを知つて而も必ず之を試みんと欲するは奇を街ふものなり。若し之を知らざれば則ち愚なり。此の二者を以つて君の其の後を度るに、頗る近似する所有り。君は外資に反対し、我國は英米二國の法を能くするを得ずと爲し、此等の二國が百數十年前に於ては現在の我國に比して更に遙に窮し遙に弱かりしことを知らず。此の兩國は我國を去ること甚だ遠く、或は君の未だ知らざる所なるやも知れざるを以つて、今更に近きものを以つて之を言へば日本有り、暹羅有り。日本は如何にして外資と外法とを以つて數十年間に一躍して強國と爲りたるか。暹羅に至つては更に窮し、更に弱く且つは愚にして、三十年前迄は尙我國に入貢し、倚つて上國と爲しむるものにて、最後の朝貢使が海盜の劫する所となつて、始めて中國に彼を保護する能力なきを知り、翻然外資と外法とを以つて其の國の利源を開發し、今や居然として亞州に於ける完全なる獨立國となるに至りたるなり。之れに依つて見るも弱國と雖、外資を借りて害なきを知り得るなり。安南と朝鮮とは從來外資と外法とに反対せるものなるが、今彼等は果して如何なる状態にあるか。

余が君を以つて一知半解なりと爲すは、君が外資の何物たるかを知らざるが故なり。又君が外資は必ず政府に於て借らざるべからずと爲すが故なり。外資と言ふも必ずしも金錢のみを指すも

のに非ず。金錢は我國にも之れ有るを以つて必ずしも外國に待つを要せず。今日の中國に缺くる所の資本は金錢に非らずして、生産に用ふる機械なり。即ち中國の實業を興さんと欲せば數十億馬力の機械を以つてするに非らざれば不可なり。然れども此の機械を製造するは一時に能くする所に非らず。經濟的先進國は百數十年の心思と努力とを以つてして始めて之を得たるものなるも、後進國は外資を借ることに依りて立ちどころに英米の如き富國と成ることを得るなり。故に今日富國足民を謀らんと欲せば、外資を含きて他に其の道無きなり。若し君の意の如く必ず外資を排して、我國に於て一切の生産用の機械を製せんとするも、自ら之を製造するにも其等の機械を製造し得る機械を必要とし、此の種機械の母は必ず當に之を外國より購入する必要有り。高利の金錢を以つて此種機械を購入せんよりは、寧ろ低利を以つて此の機械を借るを以つて上策と爲すべし。若し人々能く其の理を明かにせば、外資を借るとは即ち機械を借ることなるを知り得べし。

中國四億の國民が若し一人毎に十馬力の機械を需用して、自己の勞力に代へて生産事業を爲すものなりとせば、全國では四十億馬力の機械を需要することとなるも、若し外資を借れば十年後には目的に到達し得べく、然らずして資金を得て自ら製造せんとせば數百年を経るも恐らく目的を



達成し得ざるべし。漢陽鐵廠は設立以來二十餘年なるも、能く幾許の機器を製造し得るか。毎年産出する數十萬噸の鑄鐵は尙之を三千萬噸の鐵を産出する米國に運送し販賣せざる可からざる状態なり。之を以つても實業の發達を謀らんと欲する者は、其の一端を謀るとも効果を擧げ得ざることを知り得るなり。

即ち必ずや萬般の事に互つて發展を求め、然る後始めて効果を收め得るなり。而して萬般の事に互つて齊しく發達を求めんとせば、之れ一二の銀行の能くし得る所に非ず、又一二の工場の能く爲し得る所にも非ず。必ずや廣く外資を借り（即ち多くの機械を掛にて買ひ）以つて種々なる利源を開發し、相互に融通し、相互に用を爲すに於ては一日千里の勢にて進み、十年の内には必ずや中國を富強美德なる境地に到らしむることを得べし。斯くすれば英、米、日、暹等の各國のみが先例を専らにすることを得ざるに至るべし。而して能く斯の如くなるを得んとせば、必ず先づ智識無かる可からず。若し智識にして高遠透切なれば、外資とは必ずしも金錢を意味せず、又之を借ることも獨り公署のみ能くし得るに非ざることを知り得べく、更に又手数料控除の弊無きを信じ得べし。而して能く其の然るを知り得ば、外資を排斥せず、人皆外資を歡迎し、必ずや能く之が爲に公平なる法律を設けて保護せんことを政府に要求し、以つて官界の壟斷と手数料控除と

を防ぎ得べし。斯くすれば中國を富強ならしめ得る希望有り。然るに若し君の如く一意外資を排斥せんとするが如きは、全く義和團の思想に異らず、之れ一知半解なりと稱する所以なり。孫文。

#### 七四、對獨宣戰問題につきて段祺瑞へ

——民國六年——

芝泉總理大鑒

敬復、王亮疇君の携へ來れる貴書を拜讀し、同君に傳言せられたる遠見を拜聽せり。邀へて京に赴かしめんとするの意を知り、款篤の情に對し、感佩何ぞ極らん。

文、歸國して共和の完成に遇つてより、専ら實業の開發を意圖し、屢々中國を引ききて戰團に入らしめんとするの説有るを聞けるも、總理は識力に富み、獨逸の國情を洞悉し居るを以つて、輕々しく挑戰せざるべしと考へたり。次で絶交の議起るに及び、深く外力の迫らんことを恐れ、之が爲に私人の名義を以つて英國の首相に打電し、中國に迫つて戰團に加入せしむることの不利なるを告げたり。而して當時の英人は皆自ら辯じて中國を脅迫するの舉無きを言へり。日本人も亦見て告げて曰く、日本は中國の加入を歡迎するも、決して中國を誘引せりとの責任を負ふ能はず



と。文自らも加入は中國に有害にして協商諸國に益無きものと思考し、總理は能く絶交を以つて止境と爲すべしと信じたり。然るに今回王君來つて尊意を述べて加入のこと中止し難しと言ふ。仍つて反覆熟思せるも未だ敢て贊同する能はず。

米國の獨逸と戦ふや、始め軍資金と軍需品とを以つて協商國を助くること數十億の金額に及び、然る後陸海兩軍を以つて之を助けたるが、我國には米國の如き實力無きを以つて、強ひて米國に隨つて行動せんとせば、却つて彼等に於て借款して我國を助けざる可からず。此の故に加入の結果は偶々以つて英米軍に累を及すこととなるなり。中國の積弱は言を俟たざることなるが、既に弱國たる以上、自ら弱國の應に守るべき分有り。之を郷隣の鬭争に比するも、自ら力を量らずして可ならんや。強ひて参加せんと欲するも、現在の中國を以つて戰國に參入すれば、協商諸國に重累を加ふることとなるべし。即ち彼等が財政的に窮迫し居るにも係らず、我國が其の借款せる資金を分ち使用し、且つ借款の償還を拒むに於ては、彼等の財政上の苦痛を一層加重せしむることとなるべく、彼等が貿易によつて金融の緩和を求むるに當り、我國が其の關稅を引上ぐるに於ては、大なる苦痛を與ふるのみにて、彼等としては毫も得る所無し。又我國としても、名を正義人道に藉りて小利を求むれば、國家の體面を傷つけ、政治道德に背反することとなるを以つて、

斯ることは斷じて爲すべきに非らず。我國の加入が利を求むるを以つて窮極の目的となすものなる以上、將來とも決して人の好感を博し得ざるべく、我國の利權を侵損せらるるが如きこと有るも、人は目して自ら招ける禍なりとなして、正義を以つて相扶くること無かるべし。且つ加入後の我國が何等職責を盡すこと能はざるに於ては、人をして我國の軍隊は特別の訓練を施す者を必要とし、我國の財政は特別の監督下に置く必要有りと思考せしむるに至るべく、中國が全く無能なるを知りたる上は其の領土と人民とを犠牲にして自己の欲望を満足せしめんとするに至り、設想に耐へざる結果を招來するに至るべし。

王君の言に據れば、今回總理の加入の主張は殊に己むを得ざるものにして、之を以つて凡百の困難を排除して國家を磐石の安きに置かんとするものなりと言ふ。人誰か國家を愛せざらんや。此の公忠體國の苦衷を聞きて、感動するは蓋し當然のことなり。然れども文惟ふに、福の生ずるや基有り、禍の生ずるや胎有り。天下の困難の來るにも亦夫々の原因有り。之を避けて其の方を得ざれば必ず益々激烈となるに至るものなり。之を譬ふれば中國は從來中立を守り、本と未だ困難の言ふ可きもの無かりしも、抗議を提出してより困難を覺ゆるに至り、此の困難を避けんが爲に、絶交に非らざれば不可なりと謂ひ、既にして絶交するや、困難は絶交以前に較べて一層其の



甚しさを加ふるに至れり。而して今や又宣戦するに非らざれば不可なりとの言を爲すに至る。然れども宣戦後の困難の劇しさは、將に意想の外に出づるもの有るべきにより、其の際は如何にして之に對處し得るか。萬一竟に外人に於て我が軍權と財政權とを代つて管理せざれば不可なるが如き一種の困難なる事態の發生を見るに至らば、如何にして之に抗議を提出し得んや。絶交せざれば今日の如き困難も自ら免れ得られしなるべく、今日絶交するも未だ宣戦せざるに於ては、將來の困難も亦尙發生するに至らざるべし。而して今日の困難を免れんとせば只懸崖勒馬の譬への如く、徐ろに補救の途を求めざるべからず。然らざれば、揚湯止沸、影を畏れて却行し、終に以つて其の後を善くする無きなり。

現在の中國は正に病夫の如く、旁人の盛んに飲食するに當つて彼獨り隅に向ひ、茲に於てか彼を勧誘する者有り、曰く、俱に宴するに非らざれば不可なりと。既にして宴するや遂に食を停めたることによつて自ら苦痛を覺ゆ。又旁人の食後運動するを見る。因つて又曰く運動するに非ざれば不可なりと。元氣未だ充ち居らざりし爲、運動後、轉じて他の病氣を發するや、則ち又曰く、劇藥を服するに非らざれば不可なりと。藥發するに至り、床席を展轉し生を求むれども得ずして益々苦痛を増すや、則ち曰く、死するに非らざれば不可なるのみと。今日の中國は尙未だ外人に

於て代つて軍權と財政權とを管理せざれば不可なりと言ふが如き地位に到り居らざるも、若し一度び慎まずして彼の死するに非らざるは不可なりと言ふが如き境地に陥らんか、其の苦痛は何ものにも譬へ難きものあるべし。然れども今に及んで眼前の困難を改圖すれば、之が解免は不可能なることに非らず。文は公誼を以つて論ずるも、固より力を竭して國家を救済するの責任有り。個人の道德を以つて論ずるも、政府に勧めて宣戦することなからしめ、必ず當に其の才智を盡して政府をして此の抗議と絶交との後に發生せる困難より脱せしめざる可からず。且つ中外の開明の主を歴考するに、立憲の國に苟も大政有らば、必ず之を庶民の意見に詢ね、執政の威を以つて人言を恤むに足らずと爲すが如きこと無し。殊に近世の民主國に在つては尤も此の精神を尊重す。今總理遐遠を棄てず、樂んで反對者の意見を聞く。古人の風有り。當代政治家の尙ぶ所たるを信ず。況んや辛亥改革の際に當り、文は南方人士を以つて民國を唱立し、總理は北方軍人を以つて之に贊成す。孕育と保持とは竊に惟ふに兩つながら俱に其の責有り。仍つて方今危急存亡の時に際し、敢て誠を掬して相告げずんばあらず。若し愚見の採納を蒙らば、必ず當に束装して北行し、敬んで文の所懐を獻すべし。然らざれば以つて疑を釋き自ら當に翕然たるもの有るべし。若し兩つながら未だ能くし得ずして貿然として駕を命するに於ては、恐らく却つて融洽すること



を得ざるべし。善人能く盡言を受け得べきを知る。故に悉く告げて隠す所無し。尙採擇せんことを望む。併せて臺綏を頌へ、鑒照されんことを乞ふ。不宣。孫文。

## 七五、南洋の同志と鄧澤如とへ

— 民國六年 —

### 1、南洋同志諸先生均鑒

拜啓陳ぶれば七月二十五日已に財政部より弟の廣東歸來の近情を通告せるを以つて、想ふに已に鈞覽に達したることならん。

月の五日海軍の程總長と林司令とは巴に艦隊を率ゐて廣東に抵りたるが、各界は非常に歡迎し、粵人は共和に趨向し、羣情一致し居るを以つて、此の點告げて慰めと爲すに足るものなり。國會議員も亦已に陸續として來集し、今日中には全部集合すべきにより、當に會を開きて最高軍事統一機關を組織し、師を出して逆賊を討ち、以つて眞の共和の目的を達することを得べし。然れども近來陸海軍の將士と聯絡を謀る爲に已に尠からざる費用を要し、今後も必ずや巨額の資金を要すべきにより、速かに調達送金して進行を援助せられたし。先きに香港は資金の受取

りに不便なるを以つて、仲愷兄より翰告し、常の通り上海の廖仲愷宛送付する様依頼し置きたるが、現在緊急の秋に當り、上海より更に轉送すれば頗る時日を費すを以つて、直接電信爲替にて沙面の臺灣銀行或は廣東銀行宛に送金し、若し此の兩銀行無き場合は、上海宛送金し、廖君より當地に轉送せしむる様取計はれたし。

茲に公安を請ふ。孫文啓、八月十日。

### 2、澤如仁兄同志惠鑒

九月七日の來書により一切を誦悉せり。

先きに上海の廖仲愷宛に四千八百四十八兩を送金し、廖君の言に據れば已に領收せる模様なるも、尙上海の方を調査し、已に答復の書面又は電報を發したるや否やにつき取調べ相成度し。勿論當方に於ても書面を以つて上海の機關に問合する考へなり。

廖君は已に粵東に歸り、二十五日財政部長に就任し、總長の事務をも處理しつつあり。故に今後資金調達に關する事有らば、直接折衝せらるる方簡捷なるべし。

現に軍需浩繁なるも財源枯渴せるを以つて、軍政府より國會に軍事内國公債條例及其他の附隨せる條例を提出し、已に通過を経たるを以つて、已に財政部に速に債券を印刷すべきことを



命じ、之が勸募に着手し、各地の商會にも書を寄せて協議することとし、已に祕書廳に之が實行方を命じたり。

茲に復し、併せて籌祺を頌ふ。螺生、慎剛、源水の諸兄へ宜敷傳言ありたし。孫文啓、六年九月三十日。

追而公報一部を茲許同封送付す。

### 3、澤如老同志鈞鑒

敬啓、弟艦隊と共に來廣せる後、曾つて八月十日各般の事情を通告し置きたるが、想ふに均覽を經たるならん。

去月國會議員相率ゐて來り會せるを以つて、先進國の成規により、非常議會を廣州に開き、軍政府組織大綱を議決し、法に依つて弟を擧げて大元帥と爲せり。

弟は獻身奉國を念とするものなるにより、敢て辭退せず、九月十日遂に職に就けり。然るに廣東の各將士は皆歡迎を表示し、西南各省の將帥も亦皆遙に電を寄せて贊助せり。斯くて人心一致せるにより、以つて成功を期し得べし。

然れども義師發せんことを待ちつつあり。之が爲に巨額の資金を要するも、廣東省の財政は窮

乏し居るを以つて此の情勢に應付し難し。素と同志諸先生の慷慨の念と熱誠なる愛國の情とを知る。此の祖國の根本動搖し、志士、家を毀つて難を紓ふるの日に當り、努めて巨款を調達して軍用を救済されんことを望む。

軍政府の財政總長の職務は、暫く廖仲愷次長に於て兼攝することとなり、已に二十五日に歸廣して就任せるを以つて、今後財政に關する事は宜しく直接に折衝せられたし。

専ら茲に翰達し、併せて公安を頌ふ。孫文啓、十月十日。

貴地商會宛の書翰一通を同封せるにより代つて交付せられたし。

商會諸先生公鑒

敬啓、共和を恢復して國會再開せられ、南北の融和と國家の長治とを期せんとするに當り、料らずも段祺瑞禍心を包藏し、私に擾亂を謀り、逆督を使喚して、兵を稱し、難を構へ、約法を破壊し、國會を解散し、張勳之に乗じて復辟の變を醸成し、段氏も依然亂を厭はず。機に乗じて起つて元首を逐ひ、自ら總理と稱し、共和恢復の名を借りて、政權攘奪の計を行ひ、全國の人民にして痛憤せざる無し。文、昨年以來、地を滬濱に避け、時政に與り聞くを願はず。然るに猥りに海内と海外との同志の救國と大義とを以つて共に相督責するを蒙り、自ら敢て共和の



先導となる。此の國家傾危の時に際し、義として旁貸する無きを以つて、遂に義に嚮ふ海軍の諸將帥と共に來廣し、西南各省と共に義兵を擧げんとす。偶々國會議員も亦相率ゐて來集し、均しく擧兵討賊には先づ統一機關を必要とすと爲す。仍つて共和先進國の成規と本國人の公意とに依り、非常國會を廣州に開きて軍政府組織大綱を議決し、法に依つて文を選んで大元帥の職に任す。文已に獻身奉國を以つて念と爲すを以つて、敢て煩勞を厭はず。九月十日の非常國會に於て職に就く。然るに廣東の各將領と、廣東駐屯の雲南軍並に海軍は均しく歡迎を表示し西南各省の將領も亦多く電を馳せて推贊し、斯くて人心一致したるを以つて成功を期待し得る状態なり。然れども義師發動の機會を待ちつつあり。之が爲に巨額の軍資金を要するも、廣東省の財政は窮乏し居るを以つて、應付するに難し。素と貴會諸先生の熱心に國を愛するを知る。此の國家俶擾し、正義の士は家を毀ち難を紆ぶるの時に當り、務めて大金を贖出して軍資を豊かならしめんことを請ふ。則ち民國再造の功は當に永く不朽に銘すべし。風に臨んで佇望し、神馳に任ふる無し。之を専らにして敬んで任安を頌ふ。唯察照せんことを希ふ。不宣。中華民國六年十月十日。孫文謹啓。

4、澤如先生並各同志先生均鑒

敬啓、軍政府成立以來、局面は非常に發展し、四川方面の劉存厚は已に當方の委任を受けて四川督軍と爲り、四川雲南の間隙は已に解消し、唐元師は自ら師を督し、即日重慶を進取して長江の上流を扼し、湖南方面の傳賊も已に逃れて、長沙の省城は盡く南軍の所有となれり。最近段賊は全國兵權の外人の手に歸することを惜まらずして軍器借款を企圖し、之が爲に江蘇督軍李純、江西督軍陳光遠等は極力爲内閣に反對し、閣員全體は遂に辭職せり。昨日又王占元は湖南援軍總司令となり、段芝貴は湖北の督軍代理となり、而して王占元は遂に自主を宣布せる爲、西南の大局は一層進歩せり。只之が爲に需要する資金は寔に尠からざるものあり。此の功成るに垂んとするの時に際し、望むらくは速に巨金を調達し、陸續として送金し來り、以つて軍用に應ぜられんことを切望す。民國の前途は庶くば重ねて光有るに幾からん。特に茲に通告し、併せて均安を頌ふ。孫文、六年十一月二十二日。

5、澤如兄大鑒

月來前後して通告文と公報とを郵送し置きたるが、想ふに已に落掌せられたるならん。最近軍部の局面は日に増し進展を見つつあり。之れ遠懷を紆ぶるに足るものなり。文、光復以來久しく國內實業の發展に従事せんと欲せるも、政局迭々紛擾を起せるを以つて竟



に志有るも未だ逮ばず。去夏歸國し、深く民生の凋蔽を憫み、亟に計畫する所有らんと欲せるも、旋で又政變發生し、護法の爲に匆々廣東に歸り、春秋共に軍事の運籌に従事し、殆ど民生事業に従ふ暇無し。現に廣東の情勢已に靜穩となりたるを以つて、直ちに利源の開發に着手せんとし、礦務局を設立して全局の礦務を統轄し、總ての礦務規定を改定し、惠商利國を趣旨とすることとせり。近時廣東省の軍民兩政は均しく軍府の權限に屬するに至りたるを以つて、此の機會に乗じて各事を處理すれば比較的容易なるべく、手續上に於ても種々なる障礙を生ぜざるべし。此の故に閣下に請ふ、速に束裝歸國して此の事を董理せられよ。想ふに閣下は才大にして識高く、礦務に精通し、且つ多年海外に在つて斯業の發展に當り、成績至つて優秀なり。若し應諾主持を蒙らば實業の前途の爲に厚幸に勝へず。

穎に臨みて心を馳せ、萬一を盡さず。丞に復音を賜らんことを望む。茲に籌安を頌ふ。孫文啓、三月十五日。

#### 6、澤 如 兄 鑒

昨日吳世榮君の「ピナン」よりの來信に接したるが、病中需要甚だ急なるも、未だ外人に立替を求むるに便ならざるを以つて、情狀酌量の上、供給救済されんことを請ふ等の語有り。仍つ

て茲に五百元の臺灣銀行爲替手形一枚を送附致すべきにより、受領の上は代つて直ちに世榮兄に手交されんことを請ふ。茲に記し、併せて臺安を頌ふ。四月十六日、孫文啓。

#### 7、澤 如 兄 大 鑒

三月三十日の來翰に接したるが、廣東に歸來して礦山を經營する一事に對して三個の問題を提出し來れるを以て、特に解答をなすこと次の如し。

一、若し局所を設立すれば、礦業の經營に對しては自ら管理検査の權有り。且つ自ら營業を經營して實效を收め、斯業を提唱するを得るなり。

二、礦山規定の改訂は先づ廣東のみに於て實行し、漸次各省に推行せんとするものなり。而して廣東一省に就きて論ずれば、若し此の經營にして成功せば、已に吾人の目的は達し得るなり。

三、礦山規定にして若し已に施行せらるれば、將來和を議する際は其の條件の一となすことを得べく、若し施行に至らずとするも、一日一日と漸次、速かに効果を擧げ得るものを選んで經營せば、必ずしも大資本を以て經營する必要なく、従つて資本を空費する慮れ無きを得べし。



現時の大局に至つては、西南各省は軍政府の日に發展するを見て、其の地方割據の權を失はんことを恐れ、已に最大なる内争と暗潮とを生じ居るを以つて、軍政府に能く變事無きを得るや否やは尙未だ知る可からざるものあり。故に兄は二三ヶ月後軍政府が依然進行し其の勢力が一層鞏固となるを俟ちて歸來せば更に容易に才略を展ぶることを得べく、現在經營しつつある南洋の礦山も亦能く整理の手續を終り得べし。茲に復して、義安を頌ふ。孫文啓、四月二十六日。

#### 8、澤如兄鑒

茲に鄒海濱兄を特派して文の爲に駐滿特派員たらしめ、並に兄を特派して理財員たらしむべきにより、望むらくは鄒と海濱と相助けて事務を處理し、各人の意見を調和して、速かに陳を滅するの目的を達せられんことを乞ふ。茲に大安を候ふ。孫文、十月二十六日。

#### 9、澤如我兄惠鑒

我が軍は既に福州を得、許、黃、李の三部隊は入手せる軍資金を以つて、兵力を二倍以上に擴張増加し、雲南の朱張兩大部隊も漸次西江に接近しつつあり。之を以つて陳賊を驅除せば、賊狡悪なりと雖、斷じて東西を兼顧し難かるべし。故に弟は此の機會を最好時機と認め、協議して香港に處理機關を設立し、西江及内地各方面と策應することとし、兄に財政管理を委任する

こととせり。兄の資望と信用とは同志の共に知る所なるを以つて、辭退することなく就任せられたく、同時に海濱兄に囑し、回港して各方面と折衝する様、依頼せられんことを望む。

海濱兄の民黨に於けるや、屢々廣東の事を圖りたる有力者にして、且つ廣東、貴州等の軍隊の情狀を熟知し居る者なり。

金錢の支拂手續に關しては、兄に於て銀行に預け入れ置き、支拂の際は必ず兄と海濱との兩人が署名捺印して交付することせば、對内對外共に皆妥善なるべし。之を専らにし、併せて近安を頌ふ。孫文、十月二十三日。

### 七六、督軍團の反亂に當つて鄧澤如へ

——民國六年——

#### 1、澤如我兄大鑒

敬啓、倪逆叛亂して國會を解散し、惹いては復辟を馴致せるも、奸人に内訌有りし爲、其の復辟敗れ、而も民國は固より未だ復せず。奸人は位に乗じて盡く約法を棄て、別に固位擅權の術を謀りつつあり。之をしも討たざれば、中國は尙何によつてか自ら立ち、何を以つてか人の吞



併を免るを得ん。民國は吾人の手造せる所なり。今又何ぞ其の淪亡を坐視するに忍びんや。我が公の十餘年間、文と共に奔走せるは、言説を待つて始めて重きを爲すものに非ず。先きに僥倖するや、已に專函を寄せて意を申べ有るを以つて、想ふに此の際必ずや能く義を見て勇を爲し得べし。

從來革命の成敗は海軍の向背に依る所多し。而して今回文は海軍の主力艦隊を率ゐて南來せるものにして、其の餘の未だ來り居らざる軍艦も亦彼の爲に命を致すものに非ず。斯くて制海の權は已に我に於て之を操り居るなり。

次に國會は民國の根本にして、不法なる解散を受けたるも、依然自ら召集し得るものなり。現に已に陸續として來廣しつつあるを以つて、不日法定人員に達したる人は、合法的政府を組織し得べく、外國も必ずや承認するに至るべし。更に現在の出兵討叛の事も必ず成功するに至るべく、西南六省は難を發し、西北東北も亦響應の約有り、揚子江流域にも多數の民黨軍隊有るを以つて、之れ眞に千載一遇の機會なり。然れども廣東省の財政は從來窮乏し居り、且つ此の際、海軍と國會との兩項目に屬する費用も尠からざるものにて、將來政府が師を出す爲の資金も巨額に達すべく、此等は全く我が同志の努力に依らざる可からず。同志に於て相助盡力すれ

ば庶くば成果有るに幾からん。政府成立して南方の局面略定るに至れば、自然巨額の外債を借りて、前二回の軍債と今回の補助金とを規定通り償還することを得べきにより、希くば我が兄、之が爲に力を致せ。尙調達額が定數に達したる場合は、昔日の方法に照し、纏めて廣東省城沙面臺灣銀行「スタッフ」宛送金せらるべし。更に信書の類は廣東省城長提實業團氣付として郵送せられたし。尙茲に陳卓平、簡寅初二君の南行の便に託し、遍く各地を歴訪して義舉を鼓吹すべきことを依頼し置けるにより、彼等と協力進行して速に巨款を集め、以つて海軍、國會等の費用に資せしめられんことを請ふ。至囑に勝へず。

近安を候ふ。各同志へ宜敷く。孫文啓、八月十日。

## 2、同志諸公大鑒

逕啓、茲に同志譚根君と伍平一君と有り、米洲よりの歸途當地に立寄りたるが、譚君は飛行の大家にして、聲譽世界に著れ居るものなり。今回は多くの飛行機械を携へ居り、更に二名の學習生をも伴ひ居るが、其の言ふ所に據れば日本に於て暫く各方面の招聘に應じ、其の試演完了を俟ち、不日南洋の各地に赴きて飛行を演じ、且つ南洋に於て演技して調達したる資金を以つて飛行學校を開設し、學生を招集入學せしめて此の方面の人才を教育する考へなる由なり。飛



行機は近世に於ける軍用の最大利器なるを以つて、譚君に此の志有るは、國家の前途と我黨の前途との爲に均しく裨益する所有り。仍つて特に豫め諸同志に紹介するにより、若し譚君が到着せる際は心を盡して招待し、代つて法を設けて試演場を開き、入場券を勸誘發賣して、學校設立と眞才養成との資金調達を可能ならしめられたし。諸公は公益に熱心なるものなるにより、想ふに能く其の志を玉成せらるるならん。茲に布達し、併せて公祺を頌ふ。孫文、十二月三十日。

### 3、澤如兄鑒

茲に國民黨改組通告書多數を同封送附するにより、兄より各要地の支部に轉送し、速に照準實施して統一せしめられんことを謂ふ。若し通告書不足せる場合は、貴方に於て重ねて印刷せらるべし。茲に致す。孫文、十二月三十日。

## 七七、軍政府の改組に當り國會と各方面とへ

— 民國七年 —

### 1、國會の非常會議に復する書

敬復、貴會の代表居正、焦易堂の兩君が貴會議に手交せる公文と、政務總裁の證書とは均しく已に受領せり。

文、徳薄く、能鮮きを以つて、遺大投難の懼れ有り。故に夙に職を辭し、爾來匹夫の責を盡して國を衛り、或は稍前愆を補ふを得たり。然るに貴會議は猶望を文に囑し、又しても委ぬるに重任を以つてす。此の心彌々内に疚しきを覺ゆ。唯私衷或は竊に喜ぶ者は、正式會議は早く已に開會を經、國法の擁護に其の人有り、法に依つて政府を組織し、危きを扶けて絶ゆるを繼ぎ、軍府改組の一案は已に過去の問題に屬するに至りたることなり。従つて國民の國會に囑望する所のものは已に此の點に存するに在らず。其の詳細は已に居、焦の兩君と面談せるを以つて茲に贅言を要せず。區區たる愚忤の存する所に至つては、終始國會を尊重し、且つ始終國會を尊重するが故に貴會議を尊重し、此の故に選に當るや謹んで證書を收受せるなり。重ねて天下の先に居ることを欲せざるも、敢て諸君の後に従ふことを請はずんばあらず。若し稍未だ盡さざるの責有らば、當に其の微力を致すべし。茲に國會非常會議に復す。孫文。

### 2、吳蓮伯に復する書

蓮伯先生閣下



貴書に接し、文、政務總裁に當選せるを以つて其の就職を督促し、過分の獎譽を蒙り、慚愧に耐へず。

軍府を改組して別に生面を開き、人心既に振ひて運用靈敏なり。此の情勢已に成り、過去の希望たりし正式會議も既に開かれたるを以つて、法に依つて政府を組織し得るに至れり。存亡繼絶の事は異人の任に非らず。先生夙に茲に思を致す。我が國民の囑望も亦此の點に在りしなり。文に至つては、身、辭職せりと雖猶、敢て匹夫の責を盡す。冀くば來り示教せよ。所謂一致の行動をとるに當つては、顧みて己の欲せざる所を人に施す勿らんことを要す。文先きに深く孤立無援の苦みを感じ。故に今再び天下の先に居るを欲せずと雖、又當に諸君の後に従つて聊か援助を盡さんことを望むものなり。仍つて謹んで當選證書を收受せり。一切は居、焦の兩君に囑して面達すべし。頑軀眼病初めて癒え、他は尙安適なり。竝に議祺を頌ふ。孫文。

### 3、伍秩庸、林悅卿に復する書

秩庸、悅卿先生均鑒

惠書に接す。猥りに獎譽を蒙り、慚愧に耐へず。

兩公の徳望は文の深く感佩する所なり。來函を見るに尤も理を穿てる語多く、再三熟讀して益

益尊敬の念を殷にせり。嘗つて聞く、匹夫も義を慕ふと。何の處か勉めざらんや。唯勞怨を前に辭せず、遽に敢て責任を後に卸す。恫々の愚は當に能く共に諒する所ならん。軍府の改組は時勢の趨く所なり。而して兩公毅然として先づ之が擔任を允許す。洵に頑をして廉に、懦をして立たしむるに足るものなり。文に至つては、一息尙存し、救國を忘れず。唯孤立無援の苦みに鑒み、重ねて居先の責を蒙むるを欲せざるも、敢て諸君の後に従つて、聊か聲援の責を盡さんとす。

潺暑賢勞、御自愛を祈る。併せて臺祺を頌ふ。孫文。

### 4、趙其相に致す

其相先生惠鑒

貴書に接し、過獎を蒙る。護法の役は衆志に本づくものなり。豈區々たる一人の力の能く主持し得る所ならんや。唯衆志の趨向は分れて多岐に涉り、爲に護法の前途に頓挫を生ずるに至る。之れ鄙意の歎息する所のものなり。

足下廣東に來りたるも偶々已に赴東せる爲、未だ面晤して所懐を語る能はず。而も一日も國事を忘るゝ能はず。仍つて速に上海に來り、居、焦の兩君と邂逅して、互に非常會議囑望の意を



知るを得たり。今已に證書を收受せるを以つて、老氏と後人との趣旨に取りて過ちを補ふべく、固より未だ其の初衷を變ぜしものに非ず。請ふ、雅念を釋け。

5、劉定五に致す

定五先生惠鑒

來書に接し、諄々たる囑言を得たり。弟の急ぎ上海に來りたるも亦此の意によるものなり。就職問題に至つては初め成見無かりしも、此の是非混淆の時に當り、質直なる者も動ともすれば咎を得るを以つて、老氏の言は常に後人の見て範となすべきたのたり。惟ふに古と今と甚しくは相遠からざるなり。仍つて居、焦兩君の携へ來れる證書は已に之を收受せり。希くば雅懷を釋かれよ。尙同志と共に國の爲に奮闘されんことを望む。言はんと欲する所を盡さず。併せて議祺を頌ふ。孫文。

6、唐萱賡に復す

萱賡先生執事。

先きに鄧和卿君來廣するや、藉りて惠書を奉し、具さに懇懇の情に感ず。竝に聞く、貴統領を援けて法を護ると。我が公の忠勇果毅に益々佩仰の情を深くせり。

方今國に大患有り、是非混淆して正理彰かならず。此の故に護法の役は將に一載に述べんとし、猶未だ能く大義の所在を人々に曉諭する能はず。非法政府は之に乗じて藉りて外援を得、其の負隅の威を肆にし、金を借り兵器を購入して義師と相抗す。甚だ痛むべきなり。執事は天南の領袖にして民國の柱石たり。尙勉めて艱難に任じて閔業を克竣し、瑕穢を盪滌して大難を救ひ以つて海内喁々の望に副はれんことを望む。

文、衰を以つて邁前し、勉めて驚鈍を竭すと雖、深く時難の救済に裨益する所無きを愧づ。目下疴を上海に養ひつゝあるも、未だ敢て國民の大責を忘るゝことなく、苟も國に有利なれば、敢て勉めずんばあらず。茲に鄧君の雲南歸還に當り、數言を致して鄙悃を述ぶ。南雲、望に在り。國の爲に自愛されんことを祈る。戎社を頌ふ。不悉。孫文。

7、羅家衡に復す

縱生先生執事

此の頃惠書を奉す。詞義懇摯にして甚だ眷念の厚きに感ず。文不敏なりと雖、先きには勉めて艱難に處し、力を盡して救國の責に任ぜんとせり。而も徒に徳薄く能鮮きを以つて、誠信も未



だ衆の感ずる所とならず。遂に孤立無援を致し、覆鼎の咎を貽す。職を退きてより、區々の情を致して匹夫の責を盡さんことを期す。然るに過つて國會諸君の推舉を受けて大任を負ふに至る。力薄くして責重く愈々、悚然たるものあり。然るに來教を蒙り、廣警博諭、殷々として就職勉勵せんことを説く。文驚鈍なりと雖、何んぞ奮發せざるを得んや。惟ふに今日國會は既に法定數に足り居るを以つて、能く正式會議を開き得べく、若し之によりて正式政府を組織し、以つて絶ゆるに垂んとする國運を挽救して中外の觀聽を振はば、影響の及ぶ所、效果百倍なるを得べし。若し此の時に至れば、所謂軍政府の繼續期間の如きは、已に頗る短少なるものとなるべく、況んや羣秀皆集り、壁壘已に新まるべきにより、袁庸弟の如き者が職に在るも何等裨益する所無かるべし。然れども救國の責は未だ敢て弛まず、國會尊重の心も亦敢て懈らざるを以つて、諸君子慰勸の誼に感じ、謹んで當に聲援を盡し、諸君子の後に従つて當に微力を竭すべし。謹んで悃幅を布き、藉りて議祺を頌ふ。孫文。

## 七八、陳賡如への返書

——民國七年——

賡如先生執事

此の頃貴書を奉じ、委細承知せり。不法軍官閭里を横行し、郷民を蹂躪すること極度に達せり。怨憤に勝へず。我が駐港の同志と華僑の商人とは、公憤に激し、先生を推舉して義に依つて言を執り、遠道を辭せずして來り唱導す。文も亦郷人なるを以つて此の宗國危く、里閭靖んぜざるを見て、慨歎に勝へず。仍つて已む能はずして言を左右に述べ、以つて告ぐる所有らんとす。革命の醞釀より十有餘年にして、始めて中國を滿洲人の手より國民に還せり。夫れ民國は既に國民の公有する所たり。仍つて民國一切の施設に關する限り、國民を以つて之が基礎たらしめざる可からず。不幸當時の國民は此の責任を理解せず。仍つて國民の爲に生命を賭して闘へる黨人は竟に孤立無援の苦境に陥り、官僚と盜賊とは遂に従つて侵蝕し、民國の政權は全く官僚盜賊の手に操らるゝに至り、之より袁氏は帝を稱し、張勳は復辟運動を起し、屢々魚爛の禍を見るに至り、民國の名は存するも其の實は夙に亡ぶるに至れり。文、竊に之を痛み、憤りを發して民國の爲に官僚盜賊の毒を清め、以つて真正の共和を樹立せんとす。

故に去歲謬つて大任を負ふや、力を竭して進行せり。之れ廣東を去つて日久しく、同じく軍權と吏治とに寄寓して、挾持する所を失へるを知らざりしに非らず。直ちに就任して辭せざりし所



以は、公理と大多數人の後援とを恃みしが故なり。然れども艱難を支へて一年の久しきに及び、而も助け無く、親厚の痛む所、仇讐の快しとする所となつて遂に職を解くに至る。之れ誠に文一人の厄なり。今日中國の事は一つとして傷心棘目の事に非らざるは無し。而も之が最終の解決が、根本問題の解決に在るは寔に貴書に言ふ所の如し。

沙統領が警魂等を救へる不法事に至つては、彼は單なる現役の軍官なるを以つて、之を馭して其の道を得ば、其の行を慎んで勉めて自ら功名を樹立すべく、之を馭して其の道を失へば放佚恣睢、遂に民國の罪人となるに至るべし。若し今日賢明なる國民有りて政府を監督し、賢明なる政府有りて地方長官を監督し、以つて其の所屬官吏を監督せば、斷じて斯の如き事件の發生を見るに至らざるべし。若し發生するも須臾にして解決するを得べく、決して遷延して今日に至るが如きこと無かるべし。國を竊み、國權を竊み而も之を誅するに其の人無きが如き現状を見て、尙何ぞ現在の政府と地方長官とに望みを囑するを得んや。文、大元帥の職を辭してより、居を上海に避け、尙未だ政務總裁の職に就かず。匹夫となりて野に在り。貴書に稱する所の嚴重懲戒の件に關しては、其の地位に在らずして其の能力無し。深く以つて遺憾と爲す。尙希くば之を諒せよ。夫れ僕役に罪有らば之を懲戒し得るものは只主人のみなり。諸郷の各位、身は國民たるを以つて

即ち民國の主人なり。故に惡僕横行して法紀を破る者に對しては、當然加ふるに制裁を以つてせざるべからず。監督機關としては議會の存する有り。喉舌としては機關紙の存する有り。宜しく各方面より事實の真相を究明し、以つて犯罪の主名を明かにすべし。庶くば以つて公憤を申べ、大法を立たしむることを得べし。文も亦國民の一分子なるを以つて敢て諸卿先生の後に從つて罪を勉せずんばならず。竝に胸臆を布く。垂察せらるれば幸甚し。専ら復し敬んで喜安を請ふ。孫文。

## 七九、陳 競 存 へ

——民國七年——

### 競存我兄惠鑒

文、赴東以來、外交方面の活動驟に困難となり、一切の計畫も未だ能く實行する能はざりしを以つて、報告すべきこと無く、仍つて中間久しく書を致さず。次で眼疾治癒の爲め、匆々として上海に歸り、此の頃眼疾は平癒せるも、又感冒を患ひ、近日始めて癒ゆ。故に廣東の消息につきては未だ詳悉せず。尊處の戦況は尤も念慮する所なり。

現に日本の當局は段の援助を決し、遽に其の方針を改變せるを以つて、事恐らくは大いに困難



となるに至らん。唯段は外援を得るも、北方に於て一部の兵を分けて直系と角逐せんとしつゝあるを以つて、力を専らにして南方に對すること能はず。従つて其の内容の困難も南方と異なる所なるべし。兄は身を以つて敵の衝に當り、而も後援恃み難く、強敵、前に在り。且つ軍需、兵器等も皆缺乏し居るを以つて、此の情勢に處しては斷じて全勝の算を操り難し。故に若し萬全の策を講ぜんとせば、我が方の兵力には限り有り、敵の増援は無窮なるを以つて、潮汕の一隅は勢ひ必ず重圍に陥り、戦ふ迄もなく、戦ひ得ざる状態となり、守らんとするも守り得ざることなるべきにより、兄の今日の計としては、只勇奮前進し、險を冒して勝を求め、斯くて福建を攻取するより他なし。實力を以つて言へば、福建軍は固より廣東軍に如かず。士氣を以つて言ふも亦福建軍は廣東軍に如かず。先きに黃崗守りを失へる日は、正に厦門恐慌の時なりき。蓋し彼は西路を以つて屢々汀漳を脅かせるを以つて、南軍は一舉にして其の巢穴を覆せるなり。今日廣東軍の軍需と兵器とは缺乏し居るも、努力前進すれば敵を牽制し得る望み有り。退嬰して斃るゝを待つに較ぶれば得失相異なること霄壤も只ならず。況んや近時福建の志士は引續き起つて義兵を擧げ、全省已に震撼しつゝあり。彼等も有力なる後援と統帥者とを待望し居るを以つて、兄が若し直ちに福州方面に向けて進發せば、彼等は必ず紛々として來附し、風を聞きて響應すべく、従つて福

建軍は兼顧暇なく、必ずや勢を分け力薄弱となり、我が軍は大勝利を占むるに至るべし。加ふるに汝爲兄の一軍は西路に在つて屢々勝利を獲、彼の志は堅定を一貫せる主義とし、且つ權勢を競はず、功に誇らざる者なるを以つて、必ずや能く兄の有力なる援助者となり、兄の進行を助くるに至るべし。若し能く福建を攻取せば、前途大いに爲す有る可し。望むらくは力を悉して之を圖れ。文は現在尙暫く上海に留りて休息する考へなり。尊處の近狀を時折詳細に通報ありたし。書、意を悉さず。併せて我社を頌ふ。孫文。

## 八〇、莫榮新の叛逆に當り李烈鈞へ

— 民國七年 —

協和 足下

先きに徐元誥君上海に在つて備さに兄の意を謂ふ。甚だ鄙懐に合するものあり。文、當時、代つて一切を傳達せんことを囑し置きたるが、次で足下が雲南軍を引繼ぎて統率すとの信書に接し益々歡びを深くせり。仍つて專緘を出して答復し置きたるが、爾來已に一箇月を経過せるを以つて、已に一々覽に入りたることなるべし。



今回李と莫とが命に抗したるにより、文は此の報を得るや直ちに湖南、福建の各方面に打電し、直ちにいで、援助する様命じ置きたるが、黃廣、殿綸の諸兄も亦贊意を打電し來りたり。文の主張は獨り足下を助けんが爲のみに非らず。足下は能く廣西の賊を討ちて國法を伸ぶるものなるにより、足下を援助するは亦護法の目的を達することとなるが故なり。只道遠く音信梗塞し居る爲、種々異りたる報道を傳聞し、頗る焦灼の情あり。然るに昨日盧元弼君來りて近況を語り、仍つて貴下の軍隊の無事始興に抵り、難を免れ得たるを知り、二十餘日の憂慮は爲に大いに解くるを得たり。慶賀に耐へず。重ねて望むらくは、堅持して斷じて調停者流の言に惑はされ、初志に負くが如きことあること勿れ。足下は國の爲に賊を除き得る者たるを以つて、苟も賊黨に非らざれば孰か死を致すを願はざらんや。千載の好機會なるを以つて勉めて失ふ勿らんことを請ふ。足下に同情を表する者は決して文一人のみにあらず。便を得ば時に詳報を賜り、以つて畫策に資せしめられんことを乞ふ。餘は心照せよ。不宣。孫文。

## 八一、莫榮新討伐の各軍へ

— 民國七年 —

### 1、自先兄鑒

來書敬悉、桂賊粵省に盤踞して西南を破壊す。實に掃除するに非らざれば不可なり。兄、愛國愛郷の熱念に基づき、舊部を聯絡して義兵を擧げんと謀る。寔に嘉慰に堪へず。今後は廣東討賊軍總司令の命令に聽從して一致行動せば、桂賊の殲滅も恐らくは難事に非らざるべし。希くば努力準備して以つて時機を待て。策動速きに非らず。右懇請す。茲に復し、併せて時綏を頌ふ。孫文。

### 2、德彰兄鑒

來書備悉、桂賊の罪惡貫盈し、各地に於て之が討伐を主張しつゝあり。兄亦密かに舊部下を招集編成せんとし、陳自先君は已に十箇大隊の衆を得たる由、救國の熱誠寔に嘉慰に堪へず。此の頃已に書を陳君に致し、今後は廣東の命に従つて行動すべきを告げ置きたり。協和も亦已に六日香港に赴き、日內雲南に赴きて莫廣を贊助して四川の局面を解決するに決せり。四川に



して定らば師を會して廣西を討ち、以つて内部の賊を清むることを得べく、廣東軍も亦現に積極的に準備しつゝあり。惟ふに廣西軍は元來實力不充分なるを以つて、我が方にして時を同じうして並舉せば、勝算を操ることを得べし。

湖南の譚張の戦の如きは單なる局部的の事に過ぎざるを以つて、和議に影響するが如きことなかるべく、我が方の根本計畫を牽動し得るものに非ず。望むらくは兄等極力湖南の局勢を維持し、時機の成熟するを俟つて協同して廣西を討たれよ。斯くすれば西南の大局は必ず轉機有るべし。

兄、歴載戎衣、備さに艱苦を嘗む。益々希くば策勵して功業を遂げられよ。茲に復して念問の情を寄す。孫文。

### 3、溶川 兄 鑒

惠書に接し、且つ羅運閣君と面晤し、藉りて一切を知るを得たり。護法以來、屢々艱阻を経たるも、湖南西部の局勢は兄の支持によつて全きを得たり。刻下譚張開戦せるも局部の事に過ぎず。大局との關係に於ては、曾つて文の熟籌せる西南の根本計畫によれば、廣西系を攻服する必要あり。然る時は餘事は刃を迎へて解くことを得べし。蓋し廣西派の護法は其の名は權を爭

ふものなるも、其の實は軍柄を把持して全局を擾亂せしむるものにて、實に西南の蠱賊たり。故に此の派を除かざれば吾人の正義の主義は實現し難く、今日一城を得、明日一城を獲るも能く功を奏することを得ず。

現在廣西と聯携し居る四川の熊克武は已に雲南、貴州、四川等の各軍の攻撃を受け、我が方は迭々勝利を得つゝあるを以て、廣西派は已に其の右臂を斷たれたる譯なり。四川の局面定り、師を會して廣西を圖らば、破竹の勢を成し得べし。廣東方面に於ける廣西派は其の實力不充分なる上に、我が方の布置は皆緒に就き、競存は已に積極的に準備しつゝあり。

先日秩庸、少川、莫賡に與へたる宣言は、想ふに能く覽に達したるならん。北方の有力者も皆同情を表し居るを以つて、當に能く圓滿なる解決を望み得べし。協和は六日香港に赴きたるが不日雲南に行きて莫賡を贊助して四川の局面を解決すべく、此の行は必ず大なる効果を收むるに至るべし。仍つて廣西軍打倒の舉は斷乎之を實行せざる可からず。尙望むらくは秩馬厲兵、以つて大學を待たれよ。我方の根本計畫は決して譚張の局部的戦に依つて變更するものに非らず。茲に復す。孫文。

### 4、伯 仙 兄 鑒



討賊軍總司令の命令已に下りたるを以つて一致進行されんことを請ふ。希くば兄等努力して困難を排除し、以つて積極的に準備せられよ。時に及んで大舉せば必ず成功を告ぐるに至るべし。右懇請す。茲に復し併せて時綏を頌ふ。孫文。

5、湘 丞 兄 鑒

來書備悉、兄數年轉戰し、勞苦して功高し。現に時局愈々亂れたるを以つて、須く内患を肅清せざるべからず。此の時に當り兄能く益々奮勵し、共に義兵を擧ぐ。熱心と毅力とは殊に嘉慰に堪へず。

廣西の賊軍日に逼り、緩圖すべからざるものあり。希くば積極準備し、陳總司令の命令に聽從して一致奮闘し、以つて全功を竟げられよ。之れ余の厚望する所なり。

茲に復し、併せて我安を頌ふ。孫文。

6、廷 槐 兄 鑒

來書備悉、米洲の同志、現に已に意氣融合せる由、至つて欣慰と爲す。

方今祖國の危難に當り、救國の責任は正に我が黨に在り。同志協力するに非らざれば何を以つてか功を成さん。各同志は皆愛國の熱誠を具有し居るを以つて、宜しく常に意を體し、以つて

共濟と救國とを圖るべし。

儲金業は大會を通過せる由、頗る結構なり。飛行機會社の設立は、將來力を國家に致すところ尠からざるべきにより、蔡君の到着を俟つて共に其の方法につきて協議せらるべし。

岑陸等廣東省の東部に盤踞して護法の大業を破壊せんとしつゝあり。殊に痛恨に耐へず。現に各方面と協謀し、彼等を討つて我が黨の正大なる主張を貫徹せんことを計りつゝあり。將來大功告成せば我黨は必ず愈々發展するに至るべし。海外の諸同志に望むらくは、努めて後盾となりて我が義聲を壯んにせられよ。然る時は大局の安定も決して難事に非らざるべく、我が黨多年の苦心慘憺たる經營も、亦以つて進展するを得べし。茲に復し、併せて健祺を頌ふ。孫文。

八一、大元帥辭職後海外の同志へ

——民國七年——

同志諸先生鈞鑒

敬啓、文五月を以つて大元帥の職を辭し、廣東を離れて汕頭に抵れり。已に去廣の情勢を通告



し置きたるを以つて、想ふに青鑒に達したるならん。

昨年護法運動、意の如くならざるを以つて、來廣し諸有志と共に暴逆を剪除し、舉國の人を法軌に納めて文明に進ましめんとせり。其の時護法の聲は殆ど全國に遍ねかりしを以つて、文は藉りて大法の淪亡を拯ひ、民國の危厄を除かんとせるが、料らずも世の所謂護法は常に文と異り、始め徒らに護法の詞を飾るに過ぎずして、未だ曾つて國會の恢復と非常會議の召集とを謀らず。國會の廣東開催に對しても余を贊助せる者殆んど無し。其の西南出兵も中央の全國に對する專制權を分ち、自己專制の省を得んとしたるものに過ぎず。故に獨立以來、法を亂りて私利を營み、秕政百出し、其の毀法は段氏に比較して一層甚しきものあり。文夙に共に謀る可からざるを知り、離れて之を去り、別に我が志に適へる所のものを求めんと欲しむるが偶々軍政府改組の議成り、文の責任已に盡きたるを以つて、匹夫有職の誼に還りて力を國家に致さんとし、茲に於てか潮より東に渡れり。東より上海に歸りたる後も救國の主旨は未だ嘗つて衰へず。惟ふに文の行年五十有二、國事に奔走すること三十年に垂んとし、終始邦家を奠定し、富強を致さんが爲に力を致せり。此の心と此の志とは公私共に我が黨人の知る所なり。此の頃屢挫敗に遭ひたるも、能く百折不撓なるを得たるは、文の一手一足の力の能くせる所に非らずして、全く我が黨諸君の盡力と支

持とによれるものなり。故に文は深く我が黨の中國存亡の繫る所たるを知る。我が黨にして衰微せば中國は或は滅亡するに至るべし。此の故に斷じて蹶躓によつて壯志を磨滅せしむる能はず。之れ猶舟を操つて流に逆ふが如く、須く羣力を合して一致進行せざる可からず。文は深く諸同志が斯の意を喻られんことを望む。

而して上海歸來後、益々救亡の策が先づ我が黨を擴張するに在るを感ずるに至れり。仍つて亟に黨規を改訂して黨務の發達を促し、同志諸君と約し、努めて黨規に照して年金を釀出し、以つて總部の經費とし、文をして専ら力を國事に致し、資金窮乏の憂ひ無からしめんが爲に、總ての義捐金は一律に上海に送つて領收證を發行することと致し度きにより、明鑒されんことを請ふ。黨規は刊行の上送付致すべし。併せて均安を頌ふ。孫文啓、八月三十日。

### 八三、別るるに當り廣東の父老昆弟へ

——民國七年——

文、常に國人の廣東を稱するを聞くに、廣東は南海の形勝に據り、三江襟帶の如く、天產至豊、地方至博にして、最も早くより海外と交通し、商工學子又往々萬里を航行して、遠く異國に渡り、



艱險を履み、草萊を開き、出でて交易し、遷つて學術を求めし者、皆廣東を以つて其の先達となさざるはなし、と謂ふ。然れども之れ常人の辭なり。文は則ち我が廣東の全國に重きを爲す所以は、地形の便利に在らずして、其の人民の進取堅強の氣性に在り。物質の進歩に在らずして、人民の愛國勇猛の心に在りと爲すものなり。輒近數十年來、外は異國の侵略を恐れ、内は滿政の弱敗に鑑み、皇皇然として危亡の懼れ有り。仍つて力を竭し異族を驅除して民治を建て以つて全國を創始せんとし、乙未より以來大小數十度の戰に、斷首洞胸前後相繼ぎ、而も遂に反顧せず。海外の華僑も亦敝衣節食し、其の血汗の資を醸出して義舉を扶く。而して國內の革命戰に當つても、我が廣東の志士の死を決して事に其の間に従ひ、其の義憤を奮ふ者頗る多し。辛亥の一役に遂に數千年來の專制による瑕穢を滌盪して民國を建立せるは、之れ我が父老昆弟の大いに國家に貢獻せる所のものなり。而して民國既に建造されたるも、我が父老昆弟は建設の艱難を思ひ、凜然之に當つて變らず。其の心志を竭して國家を治安の域に進めんとせり。顧るに權邪國柄を壟斷し、良法美政は遏絶して之を行はず。晦塞の象は專制よりも劇しきものあり。之れ我が父老昆弟の疾首太息して如何ともなし得ざるものにて、文の夙夜深く憾とする所なり。文、故郷を去つて日久し。然れども國事に奔走する際も、常に桑梓の郷と釣游の地とを念ひ、寸時の間も未だ嘗つて懷

を去らず。然るに數年來、民生日に凋敝し、物力日に艱難となり、風俗日に偷薄となり、冠盜日に充滿すと聞く。疑うて謬傳ならんと考へゐたるが、客歲歸來して目撃するに及び、民政修めず、財力缺乏し、風俗淫靡となり、恣に賭博し、人を郭内に據ふるも禁する能はず。人を街路に殺すも救ふ能はず。行旅相戒め、而も動ともすれば禍患に罹る。全國未曾有の惡徳亂政は擧げて備はらざる無し。之れ眞に我が廣東の深恥奇辱なるを以つて我が父老昆弟は宜しく努めて之を滌除せざるべからず。我が父老昆弟の國を愛すること斯の如く盛んに、進取斯の如く強く、而も桑梓の郷は日に弱放墜落して一も拯救を加へず。之れ則ち我が父老昆弟の愛國の心餘り厚く、愛國の責甚だ重きを以つて、意中故郷を忘れざるも、其の祖國擁護の任を盡さんとして、力兼顧し得ざるもの有り。之が爲に暴力之に乗じて遂に摧殘を肆にし、而も抗する無きが爲なり。然れども國は郷の積れるものなり。故に國を愛する者は必ず郷を愛す。文、數十年間奔走して外國に在りしを以つて、未だ能く故郷の爲に盡力する能はず。夙夜耿耿たるものあり。常に以つて自ら愧づ。此の一載以來故郷に在りしも、護法の役に従事して備さに艱難を嘗め、綢繆補苴、心力交々瘁れ、未だ父老昆弟を助くらに暇あらず。今任務稍閑散となりたるを以つて、藉りて海外を漫遊して休養に資し、以つて元氣を復し、他日再び驚鈍を我が父老昆弟に致さんとす。別れに臨んで倦々た



り。竊に我が父老昆弟の深思されんことを欲す。夫れ愛國は固と吾人の天職なり。然れども愛郷も亦吾人の義として廢す可からざる所なり。吾人既に救國の責を負ふ。郷邦の整治も亦宜しく引いて己が任と爲すべきものたり。即ち夙夜孳々として力を民力の培養と、民智の増進と、風俗の扶持と、自治の發展とに致し、人の長所を探りて我が短所を去り、以つて我が廣東の光榮を發揚し、永く全國の儀型たらしめ、以つて譽を世界に馳せざる可からず。斯くして我が父昆弟の愛國の心は能く救國の責を盡したるものと言ひ得べく、完全にして憾無きを得べし。然らずして近きを舍きて遠きを圖るは、之を大厦に譬ふれば、只外觀を粉飾して其の内部の蠹蝕せられ居るを知らざるに等しく、日積り月累れば棟摧け樑崩るるに至るべし。之れ豈我が父老昆弟の能く忍び得る所ならんや。文は行かん。桑梓を補衛し、光榮を發揚することにつきては、重ねて我が父老昆弟の考慮畫策を煩し度し。珠江を溯回して五嶺を瞻望し、語長くして心重し。區々の微衷は惟ふに我が父老昆弟共に之を諒せらるべし。孫文。

#### 八四、廣東の事につき胡漢民と鄒魯とへ

—民國七年—

漢民、海濱並各同志公鑒

文、初め一度び廣州を取りたる上は直ちに廣東に歸り、漢民、伯蘭、李龍を全權代表として護法政府の檢束を爲さしむる考へなりしなり。換言せば一つの講和機關をつくり、萬一和議決裂せる場合は、再び軍事に従事する考へなりしも、其の後、漢民は上海に於ては此の種機關の設立不可能なりと爲せるを以つて、改めて余は上海に留り、漢民を歸廣せしむることとし、次で又考へを改め、最上の方法として余は終始廣東に歸らず、上海に在つて各方面の事を處理することせり。之が理由は已に漢民に詳言し置きたり。然るに漢民の去れる後、上海に於て沈氏等の詭謀發覺せるを以つて、曾つて法を設けて之が對策を圖る様漢民に打電し置きたり。此の約は江防の變前十日のことなり。之れより後、日日來電に接し、回廣するに非らざれば不可なるを言ふ。余も亦歸廣せば或は無形の中に患を消し得べしと考へたる所、料らずも出發の日、偶々江防の變起り、北京政府の態度も亦變化し、吳佩孚は其の吾人に對する眞の面目を暴露し、事已にここに至つては、歸廣するも亦益無きこととなれり。次で雲南軍代表夏君上海に來り、事變の一切の情況と雲南軍の態度とを詳報するに及び、廣東歸來の必要有るやに思はれ、且つ廣東よりの數度の來電に徴するに、我が同志の内部に分裂の兆有るを以つて、之に對しても處斷する所無かる可



呼らざることとなれり。第一の問題に關する限り必ずしも余の歸廣を必要とせず。廣東の政治は兄等に其の全權を委任すれば足る。之れ漢民を廣東に長たらしめし所以なり。而して第二の問題に關し、若し是非とも余の歸來を必要とするものならば、余が廣東に到りたる上は必ず此の機會を藉りて余の五權制と分權政治とを試行し、同時に徹底的に廣東省内の積弊を澄清する考へなり。斯くすれば我が黨の中堅たる諸同志は必ずや地方の行政に鞅掌する事を欲せず、余の左右に在つて五權機關を設立することを欲するに至るべし。(此の機關は北京政局の破裂以前には政府と名づけ居らざりしも、政府の實權を行施しむるものなり。)我が革命は數十年來、未だ曾つて余の抱負を施行し得る自由の地と自由なる機會とを有し得ざりしが、今若し廣東に歸れば其の地と其の時とを得て、頗る意を満たし得べしと思考しむたりしなり。而も兄等は余の微衷を察せず、省長、財政廳長、鹽運使等の職をめぐつて去就の争を爲す。之れ余の大惑の解けざる所以なり。現在の省長、財政廳長、鹽運使等は必ずしも悉く適當なりと言ふを得ず。又斷じて弊無きを保し難し。只彼等は已に廣東の事の落着以前に決定しむるものなるを以て、今彼等を一應試みるも差支へなかるべく、試みて職に適せざるを知りたる上に於て之を却くるも不可なかるべし。之を要するに余が廣東に到れば必ず兄等を中央機關に於て執務せしむべく、兄等を地方機關に於て執務せしめ

んとするものに非らざるにより、幸に之を諒せられよ。孫文、二月十日、於上海。

### 八五、總裁を辭するに當り各國會議員へ

——民國八年——

蓮伯、慧生先生並諸先生公鑒

支日の電報に代へたる速達郵便を奉讀せるに、頻りに志を抑へて去ること勿からしめ、勉めて法律系統を保存することを以つて最低限度とすべきを囑望しあり。然れども之れ亦命の如くなる能はず。寔に遺憾なり。文の國會に望む所は、國民を代表して最高權を行使し、不法政府を驅除して民權主義を達成することなり。先きに已に衷懷を述べ置きたるが、之れ徒に自ら痛心を爲すものに非ず。又單に國會の同人に向つてのみ慨を致すものに非ず。坐言起行、更に以つて之を衆人に望むものなり。

憲法の制定は國會の本分なるを以つて、文の去就によつて其の間に損益の有り得る理由無し。諸公は國民の代表にして、先きに來れる者は護法を以つて來り、後に來れる者は憲法制定を其の目的として來れる者なるにより、文の辭職によつて變化有る理由無し。文は此の謂れ無き顧慮に



よつて、暫く未だ來廣せざる議員の人格を輕量するを欲せず。若し國會に依然現制度打破の決心有らば、遽に最低限度云々の思想を抱くこと勿れ。或は一時を犠牲とするも、尙能く大義を天下に伸ぶることを得べし。然らざれば文に在つては辱有るも忍び得べく、負ふべき重任無しと雖、諸公の囑望は未だ空懸たるを免れざる可し。専ら茲に復し、併せて決心を頌ふ。孫文、九月十日。

## 八六、南北の和議につきて上海滯在の

### 國會議員へ

—民國八年—

敬復、公函敬悉、國會をして自由完全に其の職權を行使せしめんとするは、文の唯一の主張にして終始變る所無きものなり。然るに今回の和議に際し、軍政府代表章行嚴は、屢々北方に對して、國會は問題とならざるを以つて、之を問題化することに依つて和議の進行を阻礙すること勿るべきを切言し、之に對して北方も亦忌憚する所無かりしが、此の頃聞く所に據れば、國會議員は紛々として北上して非法國會との調和を謀り、爲に人の蔑視する所となりつつある由なり。之れ南方の所謂和議代表者が國會を視て無用の長物となし、且つ國會議員中にも往々自愛すること

を知らず、奮闘を肯んぜざる者有るが爲にして、此の故に内讜と外邪と紛然竝起し、文も亦之を如何とも爲し得ざるなり。況んや當時の軍政改革は國會の主張に本づくものにして、文の曾つて去就を賭して争へるものなり。而も國會の諸君は一意孤行して文の言を用ひず。然るが故に文は廣東を去りたる後は一切を不問に附したり。次で國會の同人は文の代表派遣に對する要求を堅持せるを以つて、誼として固く却け難く、仍つて多數人の請求に従つて之を派遣せるが、派遣に當つては再三、代表の指揮は一同に於て之に當り、文は時局を問はざる旨を聲明し置けり。五國勸告の時も外論は國會を助けず、文復忍びざるところ有りしを以つて、米國大統領に打電して正義を主張せんことを請ひしが、彼の贊同を承けたるを以つて、廣東に打電し、米國大統領に請うて仲裁者たらしめ、北方と和を議せざる可きを主張せり。蓋し一度和議成立せば、南方の武人と權勢に奔走する政客とは必ずや國會を犠牲として權利に易ふるに至るべきを深知しむたるが故なり。然るに國會の諸君は又しても其の言を用ふる能はず。斯くて和議既に開かれて遂に今日の如き現象を見るに至り、今後の結果は想うて知る可きもの有り。之れ又國會諸君の自ら其の因を植ゑ、自ら其の果を穫たるものにて、深く太息すべきものなり。

此の時に當り南方の代表にして國會に對して能く其の主張を堅持し得る者は唯胡漢民君一人の



み。其の他は皆權利に營々たる者なるを以つて復何の暇を以つてか之に及び得んや。他日若し國會の問題にして之を争つて得ざれば、文は祇漢民に囑して職を辭するの一途有るのみ。其の他は文の力の能く爲し得る所に非らざるなり。専ら茲に復し、併せて公安を頌ふ。孫文。

### 八七、民國史編輯の事につきて蔡元培、張相文へ復す

——民國八年——

子民、蔚西先生惠鑒

此の頃惠教を拜誦せるに、方賓如君の書翰に、國史材料蒐集の爲、文が餘暇を得たる場合講演することを允許せる旨述べ有りたる由なるが、之れ恐らく方君の意に出でたるものなるべく、文は事實未だ之を知らず。然れども革命の概數を述べて正史の資たらしむることは、文の固より爲すを樂しむ所なり。只此の頃、文は著述に従事し居り、政治哲理を以つて平常知れる所と民國建設計劃並に行易知難の理を發揮し、撰んで一篇の書となして國人を誘導し、三民主義の最後の意義が如何なるものなりや、國民の努むべき所が奈邊に在るやを知らしめんとし、已に其の半を草

創し、更に數ヶ月を閱すれば其の中の一章を脱稿する筈なり。其の述ぶる所は革命の起因にて、民國建元の日に至つて止むるものが、此の數十年間の革命運動の概略を略述しあるを以つて、民國史の根幹と爲すに足るべし。更に其の詳細を求めんとせば、海外の各地より材料を搜集彙備して採擇する必要有り。此の事は現在に於ても之を爲し得べきにより、文は海外の各機關に通告して材料を徵集し、其の稿を集むる考へなり。此の事は一年餘を費せば處理し得るならん。

貴書の、國史前編は清代の祕密諸會黨に溯るべしとの意見に對しては、文としては猶異論有り。清代の祕密諸會黨は、皆起源を明末の遺老に發し、其の主旨は覆清扶明に在るを以つて、民族主義は甚だ普及し居るも、内部の組織は依然專制にして、階級の差別甚だ厳しく、此の點共和の原理と民權主義とに背馳するものあり。従つて民主革命との關係に於て同じからざるものあり。寧ろ別に祕密會黨史として編纂し、民國史中に加へず、井然區別するを以つて至當となすべし。此の點特に注意せられ度し。

文の著述は尙未だ書名を決定し居らざるも、全部脱稿の上は國民に普及せしめん爲に、廣く印刷行する考へなるも、悉くを上海より刷行して各地に分送するは困難なるべきにより、自ら資金を調達し、北京と上海とに於て分けて印刷する考へなり。貴兄は見聞詳かなるを以つて、若し



北京に之が印行を依頼するに足る優良なる印刷所あらば通報願度く、全部上海に於て印行したる場合、分送に便なりと思はるるもの有らば均しく其の方法を通知あり度し。二者折衷するを得ば甚だ幸なり。

専ら茲に奉復し、併せて臺安を頌ふ。孫文。

### 八八、護法の役に林修梅へ

——民國八年——

浴 凡 兄 鑒

久しく音信を通ぜず。心痛殊に甚し。兩地の心情も想ふに之に同じからん。況んや湖南より來れる人々の常に我が兄に屹立不依の慨有るを言ふを聞き、爲に悚坐して忠勇を念ふ。兄、連年護法の志有り、而も屢々挫折して未だ申びず。其の何人の然らしむるものなるかは、身親ら其の境に在りし兄に於ては、一度び回想すれば文の喋々を待たずして了然たるを得べく、未だ曾つて憤らずんばあらざるべし。而も彼の窮凶極惡の徒は、之を得て快哉を叫ばんとしつゝあるなり。文時勢を通觀するに、今日護法の目的を達せんとせば、先づ彼の護法に藉りて破法を實行せんとす

る廣西派を除かざるべからず。廣西派にして去らざれば、飲んで燕京に至るとも、終に虎を拒んで狼を近づくる結果となり、何等國家を裨益し得ざるべし。況んや内奸を除かずんば斷じて功を外部に立て難し。往年の長沙の役は其の股鑿たり。然れども既に廣西を敵となす以上、共同の敵を有する者は應に引いて我が友と爲さざるべからず。尊處は既に張督軍に對して折衝する所有りたるを以つて、宜しく一意廣西の賊軍を撃破し、速に國賊を除かざる可からず。前驅して大任を負ふに足る者は、兄を舍きて他莫し。時機已に逼迫し、毫も緩慢なるを得ず。速に湖南の諸將士を合し、直ちに準備して共に大業を圖らんことを切望す。便有らば時に好音を賜らんことを祈る。餘は諒審せよ。不備。孫文。

### 八九、「ポートランド」分部長吳東垣へ

——民國九年——

東 垣 兄 鑒

六月七日及二十八日の貴信は共に備悉せり。我が黨は數年間事務の取扱ひを停止し居りたるところ、現に再び繼續進行することとなれり。艱難は固より意中の事なり。華僑は素と愛國の熱心



を具備し、多くは我黨に對して大なる信仰を有し居るものなるが、今兄の極力唱導する有り。贊成者は自然必ず踴躍するに至るべし。望むらくは奮闘の精神に本づき、人心を收攬して黨勢を擴張せられよ。本黨の勢力は大いに頼む所有るに至らん。

救國儲金は一時募集困難なるべきも、本黨と至大の關係有るものなるを以つて隨時勸誘せられんことを望む。然る時は必ず成功を望み得べし。英字新聞開設の資金の件につきましては引續き各地より承諾の來信有り。現に已に開設準備に着手せり。兄、力を竭して同志に釀金を説くの用意有る由、甚だ可なるを以つて直ちに實行されんことを請ふ。

更に黃花崗烈士建碑釀出金と、香江報の株金とは、皆本部の管轄に屬するものに非らざるを以つて、直接書を黃伯耀、夏重民の兩君に致して交渉せらるる方、妥當ならん。此等の金に關する限り其の取扱手續に對する解釋不充分なる時は、各同志の疑惑を惹起し、從つて黨に對する熱情を失ふが如き結果となるべきにより特に注意せられ度し。茲に復し、併せて殺祺を問ふ。孫文。

## 九〇、滔 天 へ

— 民國九年 —

滔天先生鑒

兩度手書に接し、一祝一弔の所、祝事は尙未だ確かならざるに、弔事は已に眞實となれり。寔に痛恨を深くす。

惠州は屢々攻むれども降らず、今に至る迄尙惡戰中なり。朱執信兄は虎門に到り敵軍の一部を降服せしめ、其の密計を畫餅に歸せしめたり。又最近廣州は既に我に付き、惠州の我が有となることも窮極に於て疑ふ餘地無きことなるを以つて、今後の支那の大勢として我が黨は志を南方に得べきのみならず、久しからずして中國統一も可能となるに至るべし。英米は近來我が方針に對して大いに好意を表しつつあるを以つて、白人に依る外患は其の憂無きを得べく、從つて今後我が黨の患は日本軍閥の政策に存する譯なり。即ち若し日本が依然その扶舊抑新の手段を行使するに於ては、中國の内亂は已む時無かるべく、斯くては吾人も亦倒行逆施し、英米に親んで日本を排斥せざる能はず。而も其の咎は當に之を日本に歸すべきものたり。故に日本の民間の同志が軍閥の方針を糾止し、同州侵略の擧を爲さずして同舟共濟の謀を爲されんことを深く望む。斯くすれば東亞は實に其の福を蒙り、日本も亦終に其の利を享け、東亞の經綸と百年の大計とは之に愈るもの無かるべし。日本の同志幸に之を圖れ。茲に復し、竝に大安を候ふ。不一。



頭山翁、木堂翁、寺尾翁へ宜敷御傳言ありたし。孫文謹啓、十月五日。

## 九一、護法の役に當り何成落へ

— 民國九年 —

雪竹兄鑒

手書備悉、四川の局面未だ定らざる爲、自然雲南軍は廣東を兼顧し難かりしも、現在四川の事は已に成功を告げ、長江の形勢は直隸安徽の關係により之れ亦變化を生ずるに至れり。仍つて文は戰略上よりして長江攻取を第一計畫と爲すべきものと思考す。現在湖北省の主客兩軍は内容甚だ複雑にて、安徽系に屬する長江の勢力も未だ盡くは消滅せず。従つて止めんとして止め得ざるの勢有り。我が方が若し戰勝の餘威を以つて速に大軍を組織し、急ぎ宜昌に出でて湖北省を圖り、其の混亂の機に乗れば收復に難からず。又他方陝を出でて中原を斷たば、現に陳樹蕃は已に懲罰の列に在るを以つて、勢ひ必ず我が方に歸服して自衛の道を講ずべきにより、之れ亦絶好の機會なり。

廣西に對しては、文思ふに雲南の在來の軍隊をして廣西との省境を守備せしむれば鞏固なるを

得べく、又湘南に在る雲南軍は莫公に於て再度統轄することとし、桂林を取るか、又は常澧より長江に出づることとすべく、此等は均しく現在急ぎ之を圖る要あり。廣東恢復は廣東軍の力量未だ足らざるかの感あるを以つて、尙之を猶豫しつつあり。來書に暫く廣西との衝突を緩和し、切實に整頓するを要すとあるは、文も甚だ賛成なり。若し彼に於て挑戰せば、時に及んで重ねて莫公に打電して協議せば可ならん。請ふ、此の意を代つて莫公に傳へ、斟酌進行せられたし。關餘は本來分配すべきものなるも、訴訟を起して以來、尙未だ落着するに至らず。何時解決し得るや知り難し。寔に煩雜なることなり。兄、東西に奔走して勞多し。自愛せられんことを祈る。茲に復し、竝に時安を頌ふ。孫文。

## 九二、護法の役に四川の何民畏へ

— 民國九年 —

民畏兄鑒

手書敬悉、最近屢々四川よりの確實なる報道に接し、熊氏は已に走り、四川の局面は大いに定る可き望あるを知り得たり。仍つて今後は只主客各軍の極端なる融治を望むのみなり。然る時は



數路に分つて出兵し、一つは四川に於て大軍を編成して宜昌に東下し、進んで武漢を取り、一つは雲南、貴州を聯合して兵を百色、柳州に出し、一つは湖南に在る雲南軍を以つて直ちに桂林を討ち、斯くすれば南征北伐兩つながら必勝すべく、天下定むるに難からざるなり。天與を取らざれば却つて其の咎を受くべし。望むらくは莫公に轉達して速に之を圖れ。

刻下段氏失敗して北洋派の勢力は其の一部を斷たれたるを以つて、我が方の在來の目標も亦已に消滅せり。之を我が方より言へば未だ最大の利益たらずんば非ず。今彼等既に段氏を打倒したるを以つて、奉直の争は次で其の幕を開くに至るべし。蓋し直の曹と奉の張とは其の野心皆底極する所無く、兩方の勢力も伯仲し居り、徐世昌は已に彼等の傀儡となり、對抗し得る能力無きを以つて是に依つて之を觀るも、奉直は必ず權利を争つて衝突決裂するに至るべし。而して安徽系も必然我に附きて報復を圖らざる能はず。故に此の安徽系の未だ全滅せざる時に乘じ、我が方に於て猝に兵を武漢に出さば、安徽の爲に謀る者は皆我が爲に其の死力を致すべし。而して曹錕は奉軍の京畿地方を獨占せんことを恐れ、必ずや敢て兵を出して相救はざるべく、爲に武漢は襄中を探ぐつて取るが如く、極めて容易に攻取することを得べし。蓋し武漢の主客各軍は混亂已に極り居るを以つて、正に乗すべき勢有り。之を過ぎて直軍の内患全く消滅すれば又撃つ可き機會無

きに至るべし。

廣東方面に於ける兄の計畫は甚妥當なり。現在民軍蜂起し、江防艦も亦已に我が方の運動を受け、嘗つて一度事を起し、竝舉する者無かりし爲失敗せるも、現今猶繼續して進行し、效果甚大なるものあり。競存も亦進攻を準備し、斯くて廣東は今や風聲鶴唳の勢有り。雲貴兩軍は戰勝の餘威を以つて百色、柳州より出でて建領を取らんとするの勢を示し、湖南に在る雲南軍も廣西の腹部を衝かんとしつゝあり。爲に廣西賊軍の古巢は岌々として震動し、勢ひ必ず廣東を棄てて逃るるに至るべし。廣東を失へば廣西は夾撃さるることとなり、従つて自存し能はざるべし。之れ又廣西の賊軍を肅清するに絶好の時機なり。

數路竝舉し、爲に軍需の供給不充分なる憾み有るも、以上の如き情勢より見て、我々は軍事上種々なる方面に於て優勢を占め居り、特別の力門を要せざるが如し。貴意以つて如何となすや。

茲に大略を記して通告す。祕密に附せられたし。時に消息を賜らんことを祈る。茲に復し、竝に大安を頌ふ。孫文。



### 九三、英字新聞社設立の事につき桑港の 林直勉へ

— 民國九年 —

直勉兄鑒

本黨の英字新聞並印刷所開設計畫につきは、先きに已に諸同志に通告し置きたる所、現に陸續として返書に接し、皆極めて賛成し、且つ多くは株式の引受けを承諾し來れり。之れ諸同志が本黨の主義宣傳の舉に對して非常に熱心なることを物語るものにして、將來本黨の光輝を發揚し得るに至れば、皆之れ我が黨員の同心協力の致す所なり。

今時勢の要求により、之が開設を急ぐ必要有るも、株金の全部引受けを見るに至らざるにより、特に衛一新君に托し、各地に赴きて勸募せしむることとせり。衛君は古き市俄古の同志にて從來市俄古に於て英字新聞を經營して黨義を鼓吹し、名聲極めて佳く、其の本黨に力を致せること妙からざるものあり。故に今特に資金募集の重任を托したる譯なり。仍つて兄に於ても此の主旨に照し、所屬の各支分部に通告し、衛君と談合の上、情狀を斟酌し、力を竭して株式を引受けしめ、

以つて此の盛舉を成功せしめられたし。

想ふに我が海外の同志は素と熱誠を抱くを以つて、今此の急圖に對しても、必ずや先を争つて、後れんことを恐るべく、當に目を拭うて其成功を觀るべきのみ。茲に致して毅祺を候ふ。孫文。

### 九四、海外國民黨同志へ

— 民國九年 —

同志公鑒

敬啓、迭々海外各支分部の來絨に接す。均しく稱す黨務日に發達を見たりと。吾が黨同志亦正に盡瘁されたることなるべし。これ則ち吾が黨の慶びと爲すに足る。茲に最近弟の計畫せる所の事業二事あり。各地同志の贊助を請ふべく左に謹告す。

#### 一、英字機關新聞の設立

査するに「シカゴ」各同志曾つて一英文月刊雜誌を經營して本黨の宗旨を鼓吹し、嗣で事故を以て停刊せり。然り而してこの志未だ少しも衰へず。該報を中國に移し本黨幹部に於て繼續經營せんと擬す。弟の意は以て吾黨のため本國上海に一英文雜誌を設け、言論を藉りて外國と應酬し、



同時に吾黨の政治上の主張、建設上の計畫を世界に宣傳するは切要の事となすもの也。この事たるや本黨に關係する所甚大なるを以つて、其要略を擧げて之を説明せん。本黨同志の設立に係る言論機關は建設月刊、星期評論、民國日報及び海外各支分部經營の日報等孰れも大聲疾呼し、功效顯著なるものあり。惟だ凡て中國文字なるを以て外人の了解する無く、其影響する所吾が國人に止る。乃ち我黨の精神義蘊は外國に宣示するの術無きなり。凡て外交上に關する事柄は言論を以て之が事由を發抒すること能はずんば損失を痛受すること甚だ多し。況や近來輿論の喉舌は其の端新聞に在るに於てをや。試みに觀よ、各國の各大政黨は一言既に出づれば全球を聳動せざる無し。夫れ豈に新聞の鼓吹の力を藉らざらんや。而して我黨獨り外國文の新聞機關に缺如するの故を以て遂に絶大の計畫を有すと雖も亦世界に披露するに由無し。是故に吾が黨苟も能く一英文雜誌を設立せんか其利益誠に量るべからず。少くも左の三利あらん。

(一) 世界の輿論に直接参加し、將に吾が黨の精神義蘊を外に宣達し、以て世界の吾が黨に對する信仰を邀へん。

(二) 外交上の積極作用を生ず。

(精神上物質上の援助を期待し得るなり)

(三) 外交上の消極的作用を生ず。

(各種侵略主義を排斥するなり)

以上の要點に觀るも吾黨の一英文雜誌の設立實行は斷じて緩にすべからざるなり。茲に於てか「シカゴ」の同志は特に雜誌を本部に移して發刊せんとの議を有し、現に實行方法を擬すること下の如し。

(一) 發刊費並に第一年の維持費二萬元を要す。(概算別表の通り)

(二) 此の種經費は各分部に由つて酌量負擔し滿期までに其の額を送達す。

(三) 各地支分部はこの金額を認定し本部に通知したる後雜誌の即時刊行を開始す。認定せる所の款は務めて本部通知後三ヶ月内に上海に送金し、以て經費に當つ。

(四) 雜誌發行の當初に於ては世界に周知されざるを以て讀者の増加も確定し難く、之が存續維持の困難豫想さるるにより、各支分部に於て若干部の購入方を依頼す。一年後に至れば發行増加し、本報の獨立を望み得べきにより、捐助を要せざるべし。

概算表左の如し。

一、英文印刷機及其の運賃

計約四千元



- 二、紙代（毎年十二期、每期三千冊印刷、每冊約百頁）計約六千元
- 三、印刷工費 計約二千五百元
- 四、主筆、翻譯及び雜役等の俸給 計約四千五百元
- 五、郵送費 計約千二百元
- 六、家賃 計約千二百元
- 七、電燈、燃料及其他雜費 計約六百元

## 二、最大最新式の印刷機關創設

本黨には從來愛國預金の一項あり、本と本黨救國の急需に備ふる爲なり。此種預金は最も實效ある用途に充つるものなるを以て方に我黨同志の眞摯の意に背かざるものと謂ふべし。之を以て軍費に充つるは畢竟有效の舉に非ず。蓋し現在本黨に屬する軍隊は四川陝西湖南福建廣東等各地に在るもの總計十餘萬を下らず。一ヶ月の軍費百萬元以上を要す。所謂預金の一款は能く其浩大の軍費を供給し能ふやと謂ふに、實に不能に屬す。若し一部に之を供すれば乃ち不公平の譴責を受けん。況や各處の軍隊は孰れも駐屯地に於て徵發以て自給自養し、これ又預金の一款に待つこと無きに於てをや。若し將來大學の計あらんも本黨最近二回の旗擧げに於て得たる經驗を以て論

すれば、之亦一大固定の鉅款あるに非ざれば事成就せず。預金の支助は甚だ微々たるものとす。故に苟くも吾が黨同志の熱誠を以て集めたる預金をして最も黨に裨益し國に益するの事業を擇び之を經營せんとせば、誠に一大印刷機關を設立するに如くは莫し。其理由下の如し。

北京大學に生ぜる五四運動發生以來、一般愛國青年は革新思想を以て將來の革新事業の準備となさざるは無く、茲に於て蓬々勃々として言論發抒し、國內各界の輿論一致し、各種新出版物は呼應唱和し、熱心なる青年經營の刊行物は紛々として時に應じて出で、葩<sup>は</sup>を揚げ豔を吐き、各々其奧義を極め、社會は遂ひに絶大の影響を蒙る所となり、流石頑劣極る偽政府も猶ほ且つ其銳鋒に敢て迫らざる也。この種新文化運動は我國の今日に在りては誠に思想界空前の大變動とす。其動機を探れば一二出版界の覺醒者の提倡從事せるに由るに過ぎざるも、遂に輿論の大異彩を放つに至り學潮に瀰漫し、全國人民の天良を激發し、死を誓つて愛國運動に隨ひ、倘ほ能く繼續增高の勢力を示せり。其將來に偉大且つ久遠の效を收めんこと疑ふべくも無し。吾が黨夫れ革命の成功を收めんと欲せば必ずや思想の變化に頼るべきなり。兵法の攻心と語に曰ふ革命とは皆この理とす。故にこの種新文化運動は實に最も價値を有する事と爲す。最近本黨の同志は新文化の波瀾を激揚し、新思想の萌芽に灌溉し、新事業の基礎を樹立し、新計畫の雛形を描けり。則ち有る所



の二大出版物「建設雜誌」、「星期評論」の如き已に社會の歡迎を受く。然り而して尙ほ力の及ばざる嫌ひあるは則ち印刷機關の缺如是なり。夫れ印刷機關は實に出版物の一大道具とす。我國の印刷機關は只商務印書館の宏大たるを號稱するのみ。而して其營業上に於て壟斷の性質を有すること固より論無し矣。且つ保皇黨の餘孽の把持する所となす。故に其出づる一切の書籍は均しく保皇黨の氣味を帶べり。而して陳腐又讀むに堪へざるこれを特にせざる也。その上又新出版物を壓抑す。凡そ吾が黨に屬する印刷物件及び外界と新思想に關係をする著作は孰れも拒絶して印刷せず。即ち「孫文學說」の一書の如き曾つて其拒絶に遭ひ、已むを得ず自ら印刷を行へり。當にこの新文化倡導の旺盛の時乃ち該書館の抑阻を受くる所たるべし。全國を四望するに他處に大印刷機關無く、而も吾が黨には近日絶大の著作計畫あり。並に各同志の價値ある選述も皆盡く出版を行ふこと能はず。これ吾が黨の宗旨宣傳の不便に就て之を言へるなり。營利上に由て觀察するに現在出版の書籍雜誌は逐日増加し、商業上の廣告も時と共に進歩す。而して印刷は依然舊の如し。資力無くんば機械を改良し營業を改良する能はず。故に印刷事業は商務印書館の獨占する所、利益の壟斷する所、而して思想も亦其制する所となれり。最近陳鏡存（陳獨秀）兄は廣東に西南大學設立を提倡し、已に議成る有り。大學成立後は印刷事業上に又一新市場を増さん。吾が黨起

つて之を圖らざれば又徒に商務印書館を利用のみ。最近に於る印刷物の増進を綜覽するに、印刷機關の供給に對する需要甚だ多く、決して一商務印書館の其需要を供給し能ふ所に非ず。又斷じて一二の壟斷に任すること能はず。試みに日本一國の印刷界の狀況を見るに大なるもの十數を數へ、小は數ふべからず。其營業の發達は乃ち文化の進歩と正比例す。今や我國新文化の趨勢に因り一時に直接の影響を受くべきは全國各學校の教科改良、講義の新編纂、發憤せる碩學鴻儒の著作等々の如き均しく印刷事業の擴張を待つあり。商戦場の各種新式廣告に至りては需要更に切なり。故に現狀を以て之を計らば此種印刷機關の營業は必ず利を獲べし。吾人は現在深く感じつつある痛苦を以て將來の需要を豫測し得べく、速かに一大印刷機關を設立することは誠に急務に非ずと謂ふべからず矣。果して能く事成らば其利左の如し。

一、凡そ吾が黨の宗旨主義の宣傳に關する書籍雜誌の類は自由に印刷し得べく他人の掣肘を免がれん。

二、本黨常に有價證券、褒獎狀及び各秘密文件書籍等有り均しく外國に託するを要せず。

三、本黨自ら各種新式教科書の編纂を行ひ、以て吾が國教育界に貢獻す。

四、國內各種の思想革新に有益なる著作の印刷を引受くることを得、並に廣告の改良を以て商



業に益すべし。

五、株式會社組織に倣ひて本黨の一營利機關たるべし。

上述の理由に據り印刷機關の設立は先づ暫定資本五十萬元とし五萬株に分つ。又この種資本は愛國預金を以て之に充て不足額は則ち各支分部に於て已に着手中の預金額を益々多數募集せんことを請ひ其未だ着手せざるものは速かに極力募集を開始せんことを請ひ、以て之を在外數百の支分部に計る。每支分部に於て千數百元を集めたらんには、即ちこの最も黨を裨し國を益する大事業はよく成就すべく、かくして事を擧げんには則ち革命の成功又之を保證し得べし。(本印刷機關は絶對に外部の株を募集せず。之れ實に吾が黨の精神を貫通し得ればなり)現に本黨は極力之が準備を計り速かに實現せんことを期しつつあり。在外の同志にして印刷上の知識及び技能を有し本事業を直接贊助する意志を有する者は住所姓名を通告し歸國助力あらんことを請ふ。未だ本事業に熟達せざる人、又其子弟を寄せて種々印刷上の技術を專習せしめ、本事業將來の人才豫備となさしめんとする者亦姓名を通告されたし。これ誠に久遠宏大の事なるを以つて、諸同志の極力贊助し速かに成就せしめられんことを望む。

右二項の事柄に對し均しく貴支分部の贊助を請ふ。同意を得ば速かに覆書を惠まれよ。本部は

各支分部の回答を俟つて後詳細なる章程を編定し奉上せん。以上。並に公安を頌ふ。孫文謹啓、一月二十九日。

### 九五、中央資金調達局發起に當り李源水へ

— 民國十年 —

源水同志兄台鑒

文、國事に奔走すること數十年に及び、憂慮困心、暴亂を除きて我が邦家を奠定せんことを冀ふ。今西南再び建設され、自治に響應する聲は宇内に瀰漫す。吾人は當に努めて其の素願を償はんことを求め、以つて我が國民を慰めざるべからず。

惟ふに自治は之を空言に托すべきに非ず。必ず實力を以つて其の後盾となすを要す。今戦線の將士、義によつて賊を殺し、斷頭裂身、猶鋒を冒して衝進す。文、常に其の勞を軫念す。而も彼等は曰く、男兒國を愛する當に斯の如くなるべしと。我が父老兄弟姉妹にして海外に寄居する者も亦當に此の言を誌すべし。

文、終日焦勞す。冀くば我が海外の同志、戦線に在る將士の艱苦と、祖國の危急とを念ひ、勃



然踴躍して援助の功を盡されよ。

茲に中央資金調達局の發起人に於て、幹事十人を公舉して會務を主持し、廣く資金勸募員を設くることとせり。即ち一面國內各處に於て資金を募集すると共に、他面、書を寄せて海外の同志に募捐の事を託し、内外共力合作して進行することとせり。夫れ國家の興亡は匹夫も責有り。今四億の同胞は重任を我が同志に付託せり。此の故に共同盡力して倒懸を解き、以つて福利を民國に致すは、之れ即ち我が同志の責なり。我が同志、其れ之を力圖せよ。  
穎に臨んで心を馳す。努力自愛せよ。孫文。

## 九六、本黨同志へ

——民國十一年——

### 同志公鑒

文八月十三日上海に抵る。會て海外同志に一電を致し並に十五日宣言を發表せり。想ふに已に鑒及のことならん。茲に再び事變の始末及び將來の計畫に就き之を同志に述べん。

此次陳炯明の叛變は唯に文と同志の料り及ばざりし所に非ず。亦天下の人の料り及ばざりし所

とす。蓋し陳炯明の性質を以つて論ずれば、其堅忍耐勞は人に過ぐるものあり。然れども國事に對しては常に私心を存す。且つ府城を深嚴にし誠を以つて人に侍せざりしは、則ち早く文と諸同志の感知せる所とす。顧るに人は各々短長を有す。但し當路者、無私の心を以つてせば之に感じ誠を致すものにして、未だ嘗つて用となすべからずとせず。即ち偶々差池あるも亦何ぞ決裂に至らしめん。更に其陰毒凶惡のここに至るを虞れざる也。陳炯明と文との關係を以つて論ずるに革命に相ひ従ひて以來十有餘年。元その陰謀は稍々端倪を露はせるも六年の亂を作るに及び陳炯明上海に來り相見えたるに、自ら誠を陳べ、再び馳驅を效す。文遂に前嫌を盡く忘れ、再び事を共にす。嗣で廣州の難に處し、福建省境に轉戦し、久しく艱苦を同うす。回粵の役、相ひ倚ること尤も深く、方に中原の戮力を期し、以つて夙志に酬いんとす。乃ち出師して甫め捷たるも禍患肘腋に生じ、干戈、肺腑に起る。之れただに國事を破壊するの所爲たるのみならず、黨義を滅し、文と諸同志を犠牲とする所爲なり。即ち其本人の人格信用も亦喪失し餘すところ無し。果して何ぞ之をなして樂む所とせんとは。これ誠に所謂肺腸の別あるものにして、常理を以て推測すべからざる者なり。

溯り見るに民國九年の秋、我内外の同志其死力を出すを惜まざりし所以は、廣東軍の廣東歸



還の目的を達し、以て頻年の禍亂を癒するにありたるなり。乃ち民國の建設尙ほ未だ完成せざるのみならず、護法の責任も亦終りを告げず。故に廣東を得て根據地と爲し、群策群力を以て戡亂の功を成し護法の願ひを全うせんといふにありたり。陳炯明の廣東東還後は、國事に對すれば餒氣を有し、廣東の事に對すれば私心を懷く。其主張する所は今日務めとする所はただ保境息民に在りとなし、四鄰の軍閥の意旨を窺測し、聯防互保を以て兵を受くることを免がれんとす。この如く退いては廣東に據る可く、進みては諸々の利害を相ひ等しうする軍閥を合す。國事を抱持するには用兵を煩はさずとも、國內自ら定まるべし。文再三切戒し之を人身に譬ふ。未だ心腹の潰瀾あらずして四肢能く完全を得んや。國既に保たず吾が廣東の一隅何ぞ獨り保ち能ふと。且つ既に保境を欲すれば須く兵を養ふべし。所謂養兵は以て保境の目的を達する所以なり。之れ境内を掃除するに養兵を以てすと謂ふに異る無し。民負擔に疲る。如何でか能く息まん。民の筋力疲れ以て負擔の軍費を給せざれば、一切の建設は開始するに由無し。所謂模範省は空言徒話のものか。一省この如くんば已に一省の害となす。各省この如くんば更に各省の害となす。所謂聯省自治は又空言徒話のものたらん。國を謀るに誠意を以てせざれば、未だ國を誤らざるものあらざるなり。況や各省の軍閥の利害安ぞ能く相ひ等しからん。而して僞中央政府又操縱排撥を其間に於

てす。禍ひ俄頃に在り。何ぞ顧みざるべけん。保境息民も亦幻想と爲す。凡そここに言ふ所は陳炯明を難じたるには非らずと雖も、而も終ひに未だ信を肯ぜず。直ちに桂軍の難を發するに至り、邊隅震驚、始めて宴安酖毒の不誣を知る。文以爲らく、これより以後勇氣を恢復し以て戮力進行を期するに庶幾しと。故に仍ほ諸同志に命じ政治上軍事上之を助くるに盡力せしむ。桂軍を早平せしむれば國難亦以て早定を得ん。圖らざりき陳炯明の敵を破りたる後故熊復萌まさんとは。昔日ただ廣東に據り以て自己を固む。今更に桂を併せて以て自己を益せんと欲す。北伐の大計を無視して顧みず。文乃ち自ら諸軍を統べ、この任に當り、以て戡亂護法の夙志を全うせんとせり。これ文の師を率ゐる北伐に向ふ以前に於て陳炯明に相ひ處するの大略なりし也。

文の北伐諸軍を率ゐる桂林に至るや、陳炯明は前戦に赴くを肯ぜざりしと雖も、後方接濟の辭を容れず。初めて其の陰謀を不意にし、務めて我を絶地に陥れんとす。去年十月より本年四月に至る半載有餘、種々の異謀始めて漸く發覺す。其一は文の桂林より出師するや、湖南を経るは必せり。而して陳炯明は湖南當局を誘ひて多方阻遏し進むる得ざらしめんとせるなり。其の書翰電報多く文の得る所となる。其二は諸軍出發以來、十三旅の衆を以てす。而して行軍及び武器、彈藥等接濟の方なく、雲南、貴州諸軍は中央の直轄を受けたるに之が糧食も亦與へられず。屢々電促



せるに一諾もせざりき。この二者を綜合するに一は我が前進を阻まんとするものにて、一は我が歸路を絶たんとせるものなり。文能く桂林に在りて半載有餘を拮据支持せるは、全く廣東省銀行紙幣二百萬の融通に恃るものなり。これ全く陳炯明の及知せざるの所となす。以て暫時軍用を維持せるなり。糧食の供給絶ゆるや北伐諸軍は流寇とならずして餓殍となる。計るに出づる所なく、始めて改道出師の舉ありたり。

四月末、文北伐諸軍を率ゐ、梧州に還る。其本意は後方の接濟問題を解決するに在るのみ。陳炯明の辭職し去るに及び文初めて以て感ずる所ありたり。蓋し猶ほ君子の心を以て之を度る。以爲らく陳炯明は將に我が獨行の志を護らんとし、故に忽然辭去せるならんと。文陳炯明の助を得ずと雖も而も梗塞せざらしむ。亦已に憾みなし。然り、其前功を念うては彼が忽然として辭去せるに忍びず。茲に於て電使者道に絶えず。反覆説明せる所は蓋し「大計に對して異同を生ぜず、必ずや當に倚託舊の如かるべし」と。

陳炯明は茲に於て亦陸軍總長の職に留るを願ふ。並に稍事休息を稱し、再び軍事に盡力す。當時人の建議するあり、陳炯明の狼子の如き野心は復た信すべからず。北伐諸軍は宜しく廣東に留りて綏養し、内患を清め、再び中原を圖るべし。以て此次の目達を遂げんと。改道出師のときに

於けるや率直戰事は方に熾んにして、北方の人民水深火熱に陥る。若し兵を發せず成敗を坐視するに於ては、則ち擁兵自衛のそれと果して何を以て異る。遂ひに江西の出師を決し、諸軍に命じ、韶州に集中し、以て大本營を韶州に設け、文五月六日親臨して師を誓ふ。李烈鈞、許崇智、朱培德、李福林、黃大偉、梁鴻楷の諸將、遂ひに各軍を率ゐ江西に向つて前進せり。

葉舉等の統率せる廣西援助の廣東軍は北伐諸軍の改道以前に在つて已に撤退の議あり。陳炯明の惠州に抵るに及び、文と電報を以て相ひ商り、葉舉を粵桂邊防督辦に委任し、率ゐる所の部隊を肇陽、博羅、欽廉、韶州、潯林一帶に分駐せしむ。北伐諸軍は已に江西に入るに及び大庾嶺已に戰事を發生す。葉舉の率ゐる部隊五十餘營突如省城に至る。廣東衛戍總司令魏邦平の力を以つて制する能はず。葉舉等各防地を有せるに命令を待たず自由に移動す。罪已に道るべき無し。然り前線の戰事既に激烈にして後方空虚、若し騷擾あれば前方の軍心必ずや動搖す。文、人心の鎮靜を以つて計となし、葉舉等に大義を曉らしめ、北伐に参加して共に功を全うせしめんとす。葉舉等則ち陳炯明を粵軍總司令に復せんことを要求す。文、以て粵軍總司令部は已に陸軍部に併入され、炯明は現に陸軍總長と爲す。管理の責あり。初め率ゐる所の部隊を一面に當らしめんと擬す。故に中路聯軍總司令を囑す。旋で陳炯明出戰を欲せず而して地方善後に自ら任ぜんと欲せる



により、命ずるに陸軍總長、辨理兩廣軍務を以てせり。所有兩廣地方軍隊は悉く節制調遣に歸せしむ。陳炯明より來電あり、力を竭すを願ひ以て委任に副ひ、並に葉舉等の軍隊を促して防地に迅回せしむと稱す。且つ謂ふ葉舉等の一部隊に斷じて不軌の行動なきことは生命人格を以て保證すと。しかして葉舉等の部隊の省城に逗留すること舊の如し。財政部供給の糧餉は岐視なきに猶ほ索餉を名とし、金融を操縦し、紙幣の低跌を致し人心恐慌し、叛狀漸く露はる。文、省城鎮撫の人なきを以て六月一日胡漢民を韶州大本營に留守せしめ、自ら衛士を率ゐて省城に至り總統府に駐し前線の諸軍に省城の恙無きを示す。而して前線諸軍の捷報迭々至る。江西南部の諸縣を攻取して陳光遠の兵、潰滅殆んど盡き、師は更に贛州に克ちたる後吉安を進取し、南昌を抜き、九江に至るまで一ヶ月を逾えず。文將に親ら海軍艦隊を率ゐる上海に至り長江に入り、陸軍と九江に於て會し以て中原を北定せんとし、先づ汪精衛に上海に至るを命じ、この事を料量せしむ。其時北方の將士已に護法尊重の表示あり。國會の開會を北京に於てするを妨礙せずと。文之に對し六月六日の宣言あり。北方將士若し能く此宣言に依らば則ち、停戰條件の商訂を以て第一步となし、統一の實行を以て第二步とし、戡亂護法の主張は完全に到達すべく、六年の禍亂は平和に歸すべし。江西の戰事此の如く北方將士の表示又この如し。苟に六月十六日の變無くば則ち政府恙無

く、和すると戰ふとに論無く期する所を貫徹し得たるなり。

六月十六日の變は文、事の二時間前、林直勉、林拯民の奔告を得、叛軍選戈の中を問道より總統府を出て海珠に至り、軍艦に搭乗せり。而して叛軍は已に總統府を包圍攻撃し、小銃と機關銃と交錯す。繼いで石油を以て天橋を焚き、粵秀樓を砲撃せり。衛士の死傷枕を並べ、總統府遂に灰燼と成る。首事者は洪兆麟の統事所の第二師、指揮者は葉舉、主謀者は陳炯明なり。總統府既に潰ゆ。所屬の各機關は皆劫奪され、財政次長廖仲愷は一日前に誘ひ出されて石龍に拘禁され、財政部所存の幣項及び案卷は掠奪されて都て盡く。國會議員も悉く逐はれ、其行李を掠めらる。總統府所屬の各職員は或は劫され或は殺され、南洋華僑及び聯義社員も亦慘殺さる。兵は縦に淫掠し、商舖住宅は横に蹂躪に罹る。軍士の掠め得たる物品は街市に於て公然發賣され繁盛の廣東市は一日にして蕭條す。廣州は明末以來二百七十餘年この如き劫は無きなり。五年龍濟光を逐へるの役、九年莫榮新を逐へるの役、皆未だこれあるか聞かず。而して陳炯明悍然之を爲す。倒行逆施乃ち此に至る。

文茲に軍艦に乘じ艦隊の將士を集合し討賊に勉む。省城慘として兵火に罹るを目撃し且つ叛軍已に粵漢鐵道より龍關を進襲すと聞き乃ち艦隊に命じて先づ發砲し省の叛軍を攻撃し、以て正義



の不屈と政府の威信の猶ほ在るを示す。發砲の後始めて黃埔に還駐し、以て北伐諸軍の旅師の來援を俟ち、水陸並進し以て叛軍を殲せんとせり。これ當日決定せる計畫にして文の久しく軍艦に駐せるの所以なり。

其時虎門の要塞已に叛軍の手に落つ。ただ長洲要塞司令馬余麟能く堅守し艦隊と相ひ犄角し海軍陸戰隊及び新募の諸民軍と合す。數少しと雖も尙ほ能く叛軍の兵力を牽制し、北江に盡く集結し以て北伐諸軍の歸來を禦ぐを不能ならしむ。叛軍は一に文を死地に陥れ、一つに死力を以て長洲を攻下し、艦隊の陸地根據を失はしめんと欲せるなり。相ひ峙する二旬有餘叛軍終ひに逞うするを得ず。而して艦隊中竟ひに一部分將士の其運動を受くるあり。海折、海琛、肇和三大艦をして戰線より疾走せしむ。長洲要塞は孤壘に敵を受け遂ひに守りを失す。文乃ち殘餘の軍艦を率ゐて省河に駛進し、沿途砲壘の轟撃を受け僚屬の將士死傷する有り。余の搭乘せる永豐艦も亦艦體に砲彈をうけて洞穴をうがたる。而して奮闘熄まさるの結果、竟ひに七月十日白鵝潭に進む。この役たるや兵艦數艘を以て叛軍の四集環攻の中に處して唯に退かざるのみならず。能く省河に進み以て叛軍の膽を懾せり。而して壯たる義士の意氣に中外の耳目これに聚る。海防司令陳策等は軍艦及び民軍を分率し江門等の意を襲うて叛軍の兵力を牽制せり。事は成就せざりしと雖も諸將

士の忠勇勞苦は誠に念ふべきなり。

北伐諸軍未だ變を聞かざるの以前、已に贛州を攻克し吉安に進撃し、陳光遠既に逃げ、蔡成勳亦敢て進まず。南昌省城は指顧し得べかりしなり。而して北伐諸軍の贛州に入れる後、陳光遠の其部將に致せる電報を搜出し得たるに已に陳炯明謀叛の事實を盡悉す。蓋し陳炯明は陳光遠に贛州の固守を堅囑し以て北伐諸軍の前進を扼し、而して兵を率ゐ北伐諸軍の後を襲はんとせるなり。故に陳光遠はこれに據りて部所を死守以て對峙せるなり。北伐諸軍の將領はこれが電報を見、已に陳炯明の蓄謀凶險を知れることなれば、禍ひ必ず發せるならんと思意す。胡漢民の韶州より馳至して六月十六日の變亂の消息を告ぐるに及び、軍心激昂し、許崇智、李福林、朱培徳は即日旋師討賊を決議し、黃大偉次いで歸る。李烈鈞贛南を留守し、以て後方の屏蔽となす。ただ梁鴻楷の率ゐる第一師は決議の後、惠州に潛歸し陳炯明と合せんとせるも、第一師の鄧仲元の手創する處となる。江西進入の戰鬪に於て許崇智等の部隊と共同作戰せるが變を聞いて後、始めは躊躇して決せず。終ひに甘心逆に従へるもの。手創せる仲元の目盲ならず矣。許李朱黃諸部隊は南雄より韶州に進み七月九日賊と劇戰を開始し、兵を分けて翁源に出づ。湖南軍陸嘉祐の部隊は亦來つて助戰す。前後二旬有餘、其始め軍鋒甚だ鋭く屢々賊勢を挫く。賊、恇擾して退かんと欲するこ



と屢々なり。然り賊は粵漢鐵道に據り運輸利便且つ堅城に憑藉し以て頑抗す。而して西江各處の響應の師、時に應ぜず。賊をして全省の兵力を傾注せしめ以て韶州翁源一帶に萃め北伐諸軍と相ひ搏つ。北伐諸軍糧食彈藥續かず。兵士の死傷も亦補充すべくも無く、猶ほ力戦屈せざりしが、やがて蔡成勳、沈鴻英の兵、後方より掩襲し、李烈鈞の率ゐる贛軍は衆寡敵せず撓敗に至る。ここに於て許李黃陳軍の諸部隊は首尾に敵を受け再戦すべくも無し。許李黃の諸部隊は贛東に退き朱陳の諸部隊は湖南に退く。此次北伐諸軍の五月初旬より八月初旬に至る凡そ三ヶ月間は始めは廣東より江西に入り、陳光遠の敵兵と戦ひ、次いで江西より廣東に返へり陳炯明の叛軍と戦ふ。一月の休息も無く、久戦而して疲る。即ち遠道の勞苦、已に人の堪ふる所に非ず。其堅苦卓絶、洵に革命軍人の模範となすに足る。而して陳炯明の輩は其欲する所の把持盤据の慾を遂げ、ために敵人に勾通することを惜まず、以て其十餘年來患難を同うし生死を共にせるの袍澤を夾撃せり。廉恥道義は地を拂ひ以て盡く矣。

文諸艦を率ゐる黃埔より白鷺潭に進める後賊の水雷を以て永豐艦を狙撃するあり。活動を逞うするを得ず。又沙面の砲撃を欲せるも國際交渉を醸成して遂に得ず。諸艦は獨り河上に懸ると雖も陸地の連絡根據なく進展すべくもなし。然り北伐諸軍果して省城附近に進出するに至らば水陸よ

り夾撃するの望み仍ほ無きに非ず。故に堅忍以て之を待つ。六月十六日より八月九日に至る五十餘日の久しきを歴し、艦中の能吏、疲勞を極むと雖も意氣彌々猛し。水伐諸軍の已に南雄より分道退却せるを聞及し陸路の援の絶えたるを知る。株守するも濟うし。文始めて將吏を率ゐて離艦し、英國軍艦に乗じ香港に至り、商船に乗換へて上海に赴きぬ。

文八月十三日上海に抵り、十五の宣言を發表し、進行方針の大略を已に具す。其要旨を摘むに數端に外ならず。其一、文、非人を任用し、變を肘腋に生じ北伐の大計功垂んとして敗る。當に引責辭職すべし。其二、陳炯明の率ゐる叛軍に對しては之を掃滅し以て廣東を禍し國を禍する者をなからしめよ。其三、護法の事業は當に合法國會の完全自由の職權を行使せしむるを以て終局とすべし。其四、民國統一と建設に關しては工兵計畫の實行、實業の發展、自治の尊重を實現すべし。文個人に至りては民國創立者の資格を以て終身民國に盡力し、在位在野の分ち無し。凡そ此等の舉々たる諸端は我が同志に深く諭さんとする所のもの也。

最近の報告に據るに許崇智、李福林、黃大偉等現に江西東部に在る部隊は衆萬餘人を有し、朱培德、陳嘉祐等の湖南に在る部隊も亦衆萬餘人を有せり。被服糧食は固より補充を待てり。而して軍力は未だ失せず、士氣旺盛、疲勞を恢復し再舉難からず。黃明堂は高雷、欽廉に在るのとき



舉兵討賊に響應せるも時遅くして事に及ばず。廣西境に退き而して湖南江西の同志軍隊と共に志を蓄へて殺賊の時を待つて動かんとす。數尤も多し。陳炯明は黨に叛き國を禍し、兵を縱にし、民を殃し罪惡貫盈せるを以て隱謀を難じ曝首にせよ。凡そ吾が同志の激勵奮發、努力を緩めずんば廣東の難を平定するは必ずや遠からざるを期し得べし。

國事に至りては北方の將士既に護法尊重の表示あり。潔白の態度をとりて事の進行を第一義とし、誠意を以て議を開けば處理の至當を得ん。各方面の使者の來見による一切の言論は悉く公開し主義を以て相ひ功摩す。則ち營利壟斷の言を排し、悉く無我の見地に立つて進む。若し能く同力合策の結果を得ば護法事業をして完全に憾みなからしむるを得ん。則ち數年來の血戦は熄み民國を導いて法治の途に入らしむべし。犠牲をして徒勞とせしめずして吾が黨報國の誠も亦些か慰むるを得ん。かくて事の息むに至らば人の藉口し道を枉げて求合する如き、吾が黨の士の屠しとせざる所の絶ゆるは言を俟つなし矣。

此に於て猶ほ言ふあらんとするは文同志を率ゐる民國の爲に奮闘して三十年に垂んとす。その間、出死入生、失敗の數、屈指すべからず。顧るに失敗の慘酷なる未だこの役の如く甚しきは有らざりき。蓋し歴次の失敗の原因は一つならずと雖も畢竟するに敵人のために失敗を招けるなり。此

役たるや則ち敵人已に我れに屈する所となす。而して敵人に代りて興りたる者は乃ち十餘年底護せる所の陳炯明となす。且つその陰毒凶險なる凡そ敵人と雖も忍び能はざるものなり。これ國の不幸たるのみならず抑も亦世道人心の憂ひとなす所なり。其のここに至れるの因は文の北伐の若蹉跌せんか累の己れに及ぶを虞れたるにあるなり。故に務めて異を立て以て自全を求めんと一念に滿ち、遂に天下の大不韙を冒して恤ひとせざる也。其心は猛禽の如しと雖も、其膽は怯なり。顧るに革命黨人は常に國民の前衛を以て自任す。其一往邁進の際に當りては前敵の何たるを問はず、後援も亦要とせざるなり。其自ら任ずる所は本と至險至難にあり。苟くも堅實の節操無くば、中途に於て潰去し或は半途に於て離反せん。數年以來護法事業は蹉跌して未だ就かず。この役に與かれる者にして苟も畏難苟安の意を存し、其守る所を失せるものあらんか、特に陳炯明の厚顔反噬以て自全を求むるを僅かに見聞せるのみにあらざるべし。然り疾風ありて然る後勁草を知る。盤根錯節のことありて然る後利器を辨ず。凡そ吾が同志この時尤も艱貞蒙難のときたるべし。最後の勝利は終ひに最後の努力者に歸せん。これ文の期望する所のものなり。餘は一々せず。孫文謹啓、九月十八日。



## 九七、討陳の役に當り蒋介石へ

— 民國十一年 —

介石 兄 鑒

此の頃兄の展堂、季新に致せる書を見しに、若し十日以内に毫も進歩無ければ、如何ともすべき無し等の語有り。吁、之れ何の言ぞや。余、親ら福建に來る能はず。兄に托するに討賊の任を以つてす。兄何ぞ遽に退志を萌すこと此の如きを得んや。夫れ天下の事は人意の如くならざるもの十中の八九なり。而も總て能く堅忍耐煩、以つて勞怨を避けざれば乃ち成功を期し得べし。然るを十日にして進歩無ければ爲すを願はずと言ふが如くんば、一事として成功を望み能はざるべし。若し來信に云々するが如しとするも、子蔭にして來滬せば此の事は已に問題を成さず。則ち内部の大難題は已に解決せられたる譯にて、従つて進歩も甚大なるものあるべし。其の他の紛々たる小事に至つては何ぞ意に介するに足らん。縦ひ我に進歩無くとも、敵は則ち日日退歩し、敵軍の將士にして若し日に、覺悟する所有りとも、敵の團體は日に日に瓦解しつあり。且つ百粵の人心は彼を恨むこと日に甚しく、我を思ふこと日に深きもあり。之れ則ち日々の進歩に非ずし

て何ぞや。由此觀之、我能く堅持するは則ち進歩を俟つ所以なり。此の故に切に兄に望む、毫も退志を萌すことなく、必ず滅陳の目的を達せんことを期すべし。斯くて後始めて能く一段落を成し得べく、然らざれば必ずや百事成す無きなり。

兄先きに西圖の志有り。余近日上海に在つて兄に代つて之を行ひ、現に已に大いに其の要領を得たり。然れども其の間の事情複雑にして、事態の煩雜なるは、之を福州の情勢に較べて百數十倍に過ぐるものあり。宜なり、我が國の志士が興に乗じて彼得<sup>ベテラブル</sup>に往き、而も悉く興を敗りて歸り來るや。然るに吾れ幸にして彼の援助を得んことを約束したるを以つて、之より日に接近することを得べし。然れども根本方法は吾人に在り。即ち些かにも地盤有れば能く策を施すことを得べく、毫も地盤無ければ、我が國の青年共產黨と彼と主義完全に同様なりとするも、到底能く爲す所有り得ざるなり。彼得の人士が、只共產黨の國民黨加入をのみ勧誘するは、皆實に此の間の人情を物語るものなり。之を以つて見るも、先づ地盤を得るに非ざれば不可なるを知り得べし。而して地盤を得んとせば廣東を恢復せざる可からず。一度廣東を恢復せば、西南は必ず統一し得べく、然る時は西南數省を地盤として大いに爲す有るを得るなり。今回の土耳其革命黨の成功も之と同一方法に據れるなり。故に兄の先きに有せし志の成否は、全く繫つて福州の守りに在り。



能く直ちに進んで廣州の賊を滅し得ば固より善し。然らずして福州を保守して堅持するも亦之れ一の進歩たるを失はず。蓋し一日福州を有すれば我に一日の地盤有り、従つて外交内應共に倚つて以つて背景と爲すことを得べきも、之れ無ければ我は租界の一亡命客に過ぎず。奚ぞ以つて輕重するに足らんや。故に兄能く我に代つて軍中に在つて一日多くを支持し得ば、我の信用は一日多きを加ふるを得るなり。故に兄に望む、我が爲に留り、萬々進歩無きを以つて去るが如きこと勿れ。兄、白鵝潭の舟中に在りし時を忘却せし乎。日に只睡食して消息を得るのみなりしに非らずや。當時嘗つて一毫の進歩無く、而も其の世界に影響せし所如何なりしぞ。今則ち余の外部に在つて活動する有り、兄等の福州に在るは余の後盾たるなり。此の後盾有れば余の計畫と對策とは日々進歩有り。或は必ずしも兄等の廣州恢復を待たずして、我が計畫は其の最後の成功に達するやも未だ知る可からざるなり。故に兄は如何なる艱苦煩勞有るとも、必ず當に軍中に留つて、余の外部に於ける奮闘と相終始せよ。庶くば成功有るに幾からん。外部の日々の進歩は紙墨の能く盡す所に非ず。仲愷來らば當に能く其の一二につき概略を傳ふることを得べし。

之を要するに今日は十數年來未だ見ざる絶好の機會なるを以つて、吾人は當に途を分つて奮闘し、一刻も息ふ可からず。庶くば先烈の犠牲と國人の期待とに負かざるを得べし。請ふ之を銘記

せよ。自愛を祈る。孫文、十一月二十一日。

## 九八、裁兵勸告の事に関し全國商聯合會へ

——民國十二年——

全國商聯合會舉出の裁兵勸告代表聶雲台、余日章、蔣夢麟、黃任の四名は、現在の需要に鑒みて之が名義の接受を表示し、本年元旦、通電を發表して主張を明示せる由なりしが、昨日元旦所發の速達郵便による裁兵勸告書に接したり。其の陳ぶる所を見るに理由既に一切著明にして、所定の方法も亦切實行ふ可きものたり。閱覽の餘、殊に決慰の情を深くせり。

文、昨年六月六日、工兵政策、國防設置等の諸計畫に關する宣言を發表し、已に其の具體方案を得、兵權を運用して主張を貫徹し、以つて國民付託の重きに負かさらんことを期したるに、猝に廣東の變に遭ひ、事と志と違へり。然れども耿々たる此の志は終始渝らず。自ら惟ふに平常抱懷する建國の志が其の八九割を行ひ得ざるは、其の原因を探るに敵の頑強なる抵抗に依るに似たるも、實は民衆の附和する者寡きによるを知れり。即ち國利民福の事に對しても國民は急起して直追せず。又先驅者に對しても援助を與へず。爲に此等の先驅者は勢ひ孤立に陥りて失敗し、爲に



後起者は心膽を寒うし、坐して奸宄を横行せしめ、仇敵意を恣にして國民躬ら其の禍を蒙る結果となるによるなり。言念之に及びて痛心甚し。然るに今や全國商會聯合會は既に裁兵を主張して天下に昭示し、更に諸先生の國民自動の精神を大聲疾呼して渙汗大號する有り。之れ孤行獨往の士をして聞きて勇氣百倍せしむるに足るものにして感佩殊に甚し。

然れども猶茲に言はざる能はざるもの有り。即ち國民の主張の表示は當局に勸告するを以つて第一歩の方法たらしむべきものなるは勿論なるも、虎と共に皮を謀るは久しく垂れて明戒たるものなり。故に第二歩の方法として積極的に準備を爲し、以つて徒らに空言を蹈むを免れざる可からず。當局の輿論を無視し、民意を摧殘するや久し。實行の決心と毅力とを示すに非らざれば、必ずや之をして降心を生じて相從はしむるを得ざるべし。有史以來勞せずして得たる民權無く、手に唾せずして成し得たる功業無し。願くば諸先生と全國商會聯合會と共に之に勉めよ。之を専らにして布臆し、順つて台綏を頌ふ。孫文。

### 九九、議員の南下を督促する書

——民國十二年——

#### 議員諸同志惠鑒

近年來、軍閥横暴を極めて綱紀を破壊せるを以つて、同志集合して、正義を廣州に唱へたるも、中途變亂起りて、粵局破壊され、爲に各同志は流離出走して初衷を遂げず。次で文、居を上海に移すに及び、國會を促して北上開會せしめ、國是を力謀して、和平統一と工兵政策とを主持し、以つて國家の根本を定め、北方武人の覺悟を促さんとせり。意はざりき、國會開かるるや、民八民六の問題定らず。更に廣州政府が數年に亙つて召集審議せる案件を悉く棄てて顧みず。之れ北方軍閥が國會の同人に對して只之れを利用せんとする意思を有するのみにて、何等の誠意をも有せざることを知るに足るものなり。今日軍閥は位を攘み、舊態復萌すまたに至れり。之れを民國二年兵力を以つて總統を挾學し、民國八年非法を以つて大位を謬竊せるに較べて更に之に過ぐるものあり。惟ふに今日の所謂北京國會なるものが合法的なりや否やは既に問題とするに足るものなるに、更に之に加ふるに不法行爲を以つてするに於ては、其れ何を以つてか天下に對するを得ん。文と國會の諸公と終始相共に同人に勸告し、各々其の能ふ所を盡して正義を力持し、兵力と金錢とを以つて國權を竊まんことを圖る者に對しては、當に去就を以つて相抵抗せんことを望む。文、必ず諸公の後盾とならん。廣東の局面は近日中に必ず定まるべきにより、然る後は各方面と方法



を協議し、適宜手配して必ず電報又は書翰を以つて通達し、公式に諸公の南下を請ふべし。今先づ劉玉山君を北京に派して一切を詳述せしむ。北の方薊門を望めば風雲昏晦たり。冀くば正を持して國を愛せられよ。茲に書を致し、併せて時安を候ふ。孫文拜、六月十五日、於大本營。

## 一〇〇、胡漢民、楊庶堪へ

—民國十二年—

### 1、漢民兄鑒

本日貴書により資金の所在と収入の項目とを知り得たり。緊急支出の分は出發前悉く各機關へ交付し置きたるを以つて、各人に於て之を受領せば問題は落着する譯なり。今後の支出にて急を要するものは、出發までには未だ發生し居らず。斷續的に支出を要するものも李濟琛宛の資金のみなり。此の資金は梅培より之を調達し得べく、吾々の資金を李軍の軍資として流用せば可ならん。其の額は約五六萬元あり。近時各機關中収入の點に於て最も有望なるは梅培にて、約一個月の臨時支出を負擔し得べく、同地の中央銀行紙幣印刷準備金未拂額も尙米金十三萬六千弗有るを以つて、其他の緊急費用と今後の繼續的費用とは、兄に於て審斷應付せらるべし。

東江出兵の事につきては、已に電報にて紹基を催促し置きたるを以つて、兄よりも重ねて催促せられたく、又顯、蒸の各電を各人に示して安否を問ひ、先づ彼等に告げて、速に東江を肅清せざれば、北敵は必ず再來し、彼等は決して廣東に安住し得ざるべく、之に反し若し能く機を見得れば一勞永逸の計を爲し得べきを知らしめられたし。

昨日は風雨に阻まれし爲、今尙石龍に滞在し居るも、明日午前中には出發して惠州に抵り得べきにより、情勢如何は重ねて通知すべし。

滄白へ宜敷く。孫文、七月二十七日。

### 2、漢民、滄白兩兄鑒

東江の氾濫は未曾有のものにして、爲に稻田は悉く澤地となり、早稻は已に收穫を失ひ、軍隊は食糧を購入するに由無く、人民は恐らく饑餓を免れざるべし。従つて刻下最大の急務は、兵站部に於て大量の米を輸送し來りて各軍の需用に應ずることと、各資金調達機關に於て速に兵站部の米穀購入の資金を工面し、引續き供給救済するを得せしむることなり。故に其の他の各種供應中、能く節約減少せしめ得るものは之を節約減少せしめ、節約し得ざるものは暫く之を緩圖し、差當り全力を擧げて東江の軍米を都合せられたし。各同志に於て此の點に注意されん



ことを望む。茲に懇請す。

同志各位へ宜敷く。孫文、七月三十日。

### 8、漢民、滄白兄鑒

輕機關銃は各軍に於て之を誂へて製造することを許さず。只、衛士隊用としてのみ造り得るものとす。注意して重ねて手令を發すること勿らんことを切に請ふ。此の儀懇請す。孫文、九月十七日。

追而以前發せるものは直ちに取消されたし。

## 一〇一、胡漢民、許崇智へ

——民國十三年——

### 漢民、汝爲兩兄鑒

現在軍隊は已に完全に韶關に集中し居るにより、務めて速に發する必要有り。然る時は能く時機を失せざるを得べし。探聞する所に據れば獎鐘秀は已に萬安を得たる由にて、贛南の敵は爲に非常なる恐慌を來し、多くは南昌、吉安に向つて移動し、贛州以南の敵力は甚だ薄弱なる由なり。

故に若し我軍が速に進出せば、必ず贛南全部を攻取し得べし。只出發に要する費用無き爲、遅れて機を失する恐れ有り。力を竭して十萬の資金を調達し、以つて出發を可能ならしめんことを望む。

先日湘芹に依頼し電力司に往きて、民國八年以前の政府の持株に對する利益配當金を要求し置きたり。之等の利益配當金は該会社の結算書中には其の額を記載しあり。然れども數度の政變に因り、政府に赴きて問責する人無き爲、該会社の支配人も亦詐つて知らざる態を装ひ居るも、斷じて之が勘定を認めざる能はざるものなり。仍つて若し他に調達の法立たざる場合は、此の項の資金は最も大口にて迅速をも期し得べきにより、兩兄に於て協同して法を設け、湘芹を助けて速に之を受取り以つて北伐の費に應ぜられんことを請ふ。至要、至要。

茲に致し、併せて時社を候ふ。孫文、十月十八日。

## 一〇二、北伐に當り蔣介石へ

——民國十三年——

### 1、介石兄鑒



新着の武器は當に用ひて以つて一隊の決死の革命軍を練るべく、其の兵員は廣東の農團、工團並に各省の操心堅固なる革命同志より之を招集し、黃埔の學生を以つて其の骨幹たらしむべし。而して之が練兵場は韶關に在るを以つて、兄に望むらくは、前令通り處理し、武器を急ぎ韶關へ輸送し來つて、意外なる事の發生を防ぐべし。至要、至要。尙此の意を「ボ」顧問に轉告し、且つ彼に請うて、各専門家に於て代つて適當なる計畫を籌謀し、特種兵の人才を招致する様取計はれ度し。右依頼まで。文、十月十一日。

## 2、介石 兄 鑒

銃器の韶關輸送が不可能となり、盡くを汝爲に引渡したる由なるが、現在環境の變遷によりて條件の施行が不必要となりたる以上、此の銃器は窮極に於て何に使用するを以つて最も適當となすや。此の點につき兄に於て詳細考慮の上、余に告げられんことを請ふ。

北伐は必ず實行する考へなり。且つ必ずや大なる影響を與へ得べし。樊鍾秀の部隊は數日前已に萬安を破りて一團の降兵を收容せり。聞く所によれば數は已に奔命に疲れ居る由なり。大軍は現に尙出發の資金無きも、二日後には必ず何雪竹に令して再び出でて樊の後塵を繼がしむべし。然る時は敵は必ず更に恐慌を來すべし。

趙成梁は銃二千挺を要求し、若し能く之を入手し得ば、資金無くとも必ず出でて江西を撃つべしと稱し居れり。江西の敵には全く鬪志無きを以つて、大軍一度び出づれば必ず江西全省を攻取し得べく、以つて上海の失敗を補ふことを得べし。且つ張靜江より來電あり。極力江西への出師を督促し、寧ろ廣東を棄つるも之を爲すべしと主張し來れり。之に依つても各省同志の望みを知り得べし。仍つて吾人は之を慰めざるべからず。今回は一度び出すれば必ず能く大功を成し得べきこと疑義無し。兄に望む、各人を鼓勵し、速に出でて一は東江より陳逆を擊破して福建に出で、一は江西に出づれば、四川湖南の各軍は必ず先を争つて武漢を出づべく、斯くて中原は我が有と爲すことを得べし。然らざれば奉直孰れが勝つとも西南は必ず亡ぶべし。故に此の時に當つて能く進めば即ち存し、進まざれば則ち亡ぶるは、之れ必然の理なり。兄に望む、余の言を河漢となさざれば幸甚し。孫文、十月十六日。

## 3、介石 兄 鑒

機關銃の數は當初より豫定額に足らざりしが、今又分配して殘餘無し。然れども朱益の出發には是非共、急ぎ此の利器を必要とするを以つて、學校より一挺、航空局、裝甲車隊の兩處より二挺又は一挺、計三挺、少くとも二挺を給與して出發する軍の士氣を勵すこととし、且つ相當



數量の彈丸をも與へ度きにより、右御手配を乞ふ。

茲に致し、併せて時安を候ふ。孫文、十月二十四日。

#### 4、介石 兄 鑒

北伐の爲に銃器三千挺を都合し得る様、兄の切實なる努力を望む。若し之を都合し得ば、余は直ちに趙成梁に嚴重なる條件を與へ、彼に北伐を要求すると共に、韶關を返還せしめて大本營の練兵用地たらしむべきにより、之れ實に兩利の途なり。従つて又今後銃器補充の方法無きを憂ふるにも及ばざるべし。然るに若し此の時に當つて韶關を廓清せざれば、將來其の事は更に困難となるべく、斯くては我黨が一片の淨土を得て兵を練り民治を試行することさへ不可能となるに至るべし。故に三千挺の銃に依つて南韶を得ば其の利實に大なるものあり。兄に於て余の爲に酌量處置されんことを請ふ。又若し練兵計畫に障礙無ければ彈丸（一挺四百發）を至急韶關へ輸送せられたし。尙發送の際は其の旨電告し、趙、宋との交渉に便せられたし。孫文、十月二十六日。

#### 5、介石 兄 鑒

銃器の韶關輸送が若し直ちに實行し得ざるものならば、我が同志中の軍隊にて余の爲に奸賊を殺すことを肯んずるもの（長官より下士卒に至る迄一致して此の志有るを要す）に漸次之を分給すべきにより、兄は汝爲と共に孰れの部隊が此の決心を有し、奸商の搖動する所とならざるものなるかを精査し、若し斯の如きもの有らば之を集め、兄と汝爲とに於て、彼等に必ず省内の奸兵と奸商とを滅して革命の地盤を維持すべき旨の決死の誓約を立てしむべし。之が爲には一萬人以上の部隊が上下一心、以つて此の事に當る必要有り。更に先づ汝爲に猶豫すること無く完全なる責任を負うて余の爲に盡す決心有るを要し、黄埔の銃器を悉く之に給與し、直ちに義を起し、賊を殺して反顧すること無からしむるを要す。若し汝爲にして此の決斷を下し得ざるに於ては、如何なる艱難危険有りとも、必ず銃器を韶關に輸送し來りて、吾人の衛隊を練らざる可からず。此の事は汝兄とも切實に打合せの上、即時決斷施行せられ度し。商團の七九彈も輸送し來つて北伐の爲に使用して不可なかるべし。孫文、十月十二日。

#### 6、介石 兄 鑒

今日練兵を開始せるも、猶余の所定の編制を實施する能はず。練兵完了後に至れば、長官より兵卒に至る迄、總て其の習慣をつけられ、改制の實行は一層困難となる可し。然るに現に練兵完了後之が計畫運用を欲しつつあり。然れども開始の際已に余の制度を行ふ能はざれば、余も



之を完了後實施する考へを有せず。今余の所用に應ぜんが爲、特に「ガロン」將軍に托して余の衛兵一營を訓練して他軍の模範たらしめんとしつつあり。兄は謂ふ、余の編制は其の規模大に過ぐ。若し之に依るとせば一營又は一團を以つて最大單位とせざる可からず。一營より一團へ、一團より一旅へ、次第に之を推及せば不可なる可しと。余想ふに各位が余の編制を實施するを欲せざるは、全く舊習に禍され居るが爲なるも、本其の舊習たるや日本士官と保定軍官との一知半解の見に基くものにして、彼等は全く世界の大勢と未來の戰陣との如何なるものなるやを知らず、其の師に承けし所を一成不易のものなりと信じ居るなり。此の故に余は今日の軍人が其の舊習を捨てて、余の制度に服従せん事を求むるものなり。斯くすれば將來とも能く余の命令に服従し、余の指揮に聽従する事を得べし。然るに今日學生に教ゆるに當つて一の既成觀念を以つてせば、教授修了するも決して革命軍たらしめて革命の任務を負はしむることを得ざるべし。試に北洋の軍隊を見よ。其の訓練は行届き補充は備り居るも、作戰の點に於ては遠く敗殘の楊化昭、臧致平に及ばず。之れ彼等兩名は會つて南方の革命軍に接觸せること有り、従つて無形の中に一二の革命戰術を學び得たるが故なり。現在當地に於て訓練しつつある軍隊も、若し將來能く余の指揮に聽従するに於ては、余は必ず之を導いて一を以つて十を攻め、一

を以つて百を攻め得るものたらしむべし。之等の任務は尋常の兵法の能くし得る所に非ず。今日訓練開始の時に當つて余の制度を行はずして、其の完了の時に至つて指揮を聽従すべしとなすも、余は決して其の言を信ぜざるべし。茲に致す。軍官學校の教員と學生とへ宜敷く傳言ありたし。孫文。

追而茲許步兵編制表を同封送附す。其の餘の砲兵、飛行兵、工兵、輜重兵、機關銃隊、裝甲軍隊の編制は未だ決定し居らず。

○革命軍步兵編制

兵數	將校下士官
六人を一伍とす。	なし。
六伍を一系列とす。	同 一、
三列を一連とす。	同 四、
六連を一營とす。	同(附二名) 二一、
六營を一團とす。	同(附二名) 二二九、
三團を一旅とす。	同 三八八、
三旅を一師とす。	同 一、一六二、



本表に定められたる將校下士官の數は酌量再加することを得。

### 7、介石 兄 鑒

先日「リマ」將軍に命じ、裝甲車四臺を準備し、北江二臺、東江一臺、佛山一臺の割合に夫々配備して保護せしめ、途中宣傳隊を同行せしめて沿道に於て宣傳に従事せしむることとし、佛山の裝甲車は準備完了し、次で宣傳を開始しむるところ、兄の處より人を派し來りて輕機關銃と短銃とを回收せる爲、計畫の實行不可能となり、「リマ」將軍は之が爲に大いに失望せり。余も亦彼と其の心を同じうするものなり。此の事は黨務と軍事の進行に重大なる關係を有し、且つ余は一兩日中に親ら韶關に赴く考へにて、其の時は此の裝甲車二臺を隨行せしめ度きにより、先きの命令通り機關銃八臺、小銃二百五十挺を送附せられたく、遲延し相違せざらんことを切望す。茲に致し併せて毅安を候ふ。孫文、九月四日。

### 8、介石 兄 鑒

貴翰拜誦、答復すること左の如し。

一、余は湖南軍と朱培德軍が完全に出發せる後に始めて能く省に歸り得べく、之が爲に約十日の日子を要することとなるべし。

一、大本營の決定せる韶關に於ける練兵用地中最良のものは、馬壩と南華寺との間に在り。此の地の氣候風土は極めて衛生的なり。

一、汝爲は余の所定の計畫を實施せざるにより、銃器は第二議通り悉く彼に交付し得ざるものとす。

一、練兵は今日の根本的要圖なるにより、銃器の處分も此の事に準すべきものたり。

即ち若し五千挺を要するものならば、其の中の三千挺は北伐の用として不可なかるべし。然れども其の全部を練兵の用とすれば、他に流用することを得ざるべし。又汝爲が若し銃器一式を必要とするものならば、先づ其の部隊を整理し、劣悪なるものを淘汰して若し善良なるもの一萬を留め得ば、之に對して一萬挺を給與し、二萬を留め得ば二萬挺を給與する様取計はれたし。露國汽船が已に當地に來りたる以上、再度の來航は一層容易なるべきにより、若し我々に頼むに足る兵士有りて銃器を必要とする如きこと有るも今後は問題と成らざるべし。即ち今回の銃器は試験的に輸送し來れるものに過ぎざるにより、今後其の必要有りて余に告ぐる者有らば、必ず引續き供給救濟することを得べし。

其の他の事は兄の見る所甚だ是なり。北伐出兵の事に至つては、當地に於ては樊軍の出發以



來、已に江西の敵は奔命に疲れ居る有様なり。昨日何雪竹の軍は始めて能く繼續出發するを得たり。斯の如き各個擊破の方法によりて出兵するは兵家の忌む所なるも、樊鍾秀は竟に此の忌を冒せり。而も出でて未だ敵を見ざる状態なるを以つて、何ぞ能く擊破の力を有し得んや。余想ふに湖南軍と朱軍とが一度び出づれば、江西南部は必ずや悉く我が有となるに至るべし。茲に答ふ。孫文。

次に東江用として備へある七九彈丸五十萬發を、湖南軍の江西進出の爲に發給せられ度し。之が到着次第湖南軍は出發すべきにより、幸に遅延せざらんことを請ふ。現在のところ只朱軍の出發費のみ不足し居るにより、若し此の資金到着せば、初發の北伐軍は完全に出發することを得る譯なり。

### 9、介石 兄 鑒

今朝特使の携へ來れる貴信を拜讀し、早速其の次の列車に間に合ふ様返書を出し置きたるが、尙盡さざりし所有り。兄の言に據れば二ヶ月以内に一隊の勁旅を練り得べしとのことなるが、若し現に已に訓練を開始し居るものならば、必ずしも其の訓練地を韶關に移すに及ばず。其の爲に時日を費さば、二ヶ月にては成就せざるべく、若し二ヶ月にて其の用を爲さしめんとせば、

現在の場所を以つて一層便となすが故なり。

次に訓練を施しつつある兵員は五千なりや、八千なりや。若し五千ならば其の餘の三千挺の銃は即日韶關に輸送して北伐に利せられたし。趙成梁の部下は韶關に於て徒手にて訓練を受けつつあり。其の兵數は數千に達するを以つて彼等は更に二千の銃を必要とし、之を得ば出發費なくと必ず即日北伐するを得べし。李國柱（湖南の最も熱心なる革命同志）も亦歩兵銃一千挺を求め、之を以つて朱培德軍に編入せんとしつつあり。斯くすれば趙成梁軍に銃四千、朱培德軍に四千、湖南軍に一萬二千あるを以つて、合計二萬挺の銃を有することとなる譯なり。（其の他は計上せず）斯くては江西の進取に成功し得ざるが如きこと無かるべし。而して江西を得たる後は湖南は問題とならず。更に雲南の唐と四川の熊と貴州の袁とが其の師を武漢に會して中原を窺はば、曹吳も之を如何とも爲し得ざるべし。

兄の新軍が二ヶ月を経て訓練を終りたる上は、直ちに韶關に來らしめて余の命に聽かしむることとし、若し西南の局面に發展有らば、先づ西南を鞏固ならしめて後、再度西北を圖ることとしたく、最良の方法としては、西南と陝甘等の如き西北各地とを聯絡する交通路を打開すれば可なるべく、斯くすれば容易に西北の經營に着手し得べし。蓋し西北に欠くる所は人なるを以



つて、若し通すべき捷徑無く、専ら海外よりの繞り道によることとなれば、事は一層艱難となるを以つてなり。三千の銃を能く速に輸送し來り得るや否やにつき、直ちに回示されんことを切望す。孫文。

## 一〇三、商團事件の處置に關し蒋介石へ

——民國十三年——

### 1、介石兄鑒

「ノールウー」商船の密輸せる武器を差押へたる事件に關聯し、鄧彥華に今晚砲艦を率ゐて長洲に來る様依頼し、英國軍艦にも黃埔に來つて協助する様、約し置きたるにより、若し事有らば彼等と協議して一致の行動をとられ度し。文白、八月九日晚。

### 2、介石兄鑒

商人に北伐費の調達を願ひ、銃器の返還を求むる者あり。此の事は現に精衛をして交渉せしめつつあり。若し完全なる解決を見るに至らば、大部分の銃は之を政府に服従する商團に返還せざる可からず。従つて其の一部を練兵の用に供せんとする計畫は實行不可能となれり。何れに

しても此等の武器の處置は精衛の交渉を俟つて定る譯なり。孫文。

### 3、介石兄鑒

先きに「リマ」將軍より装甲車用として輕機關銃十八臺を必要とする旨申越有りたる筈なるに、務めて其の申出通り發給せられたし。持ち來りて學生に一時貸與し、又持ち歸らしむるが如きは殊に李將軍の望を失する恐れあり。「リ」君は専ら装甲車の戰術に長じ居るを以つて、一切を其の配備に従へば能く靈捷なるを得べし。且つ敵人は已に來つて翁源河頭を窺ひ、韶關への鐵道により交通を遮斷せんとしつつあり。余は近日中韶關に赴く考へなるにより、此の鐵道の防備は一層緊急の度を加ふるに至れり。仍つて輕機關銃と小銃とを一齊に盧振柳に交付して持參せしめ、「リ」將軍をして後方防衛に備ふるを得せしめられたし。延誤すること勿らんとを切望す。孫文。

### 4、介石兄鑒

取敢へず朱培德軍へ歩兵銃一千挺と之に必要な彈丸とを給與せられ度く、先きに發給方を依頼し置きたる其餘の各部隊へは、精衛と商人との交渉落着を俟つて改めて之が發給方を協議することと致し度し。茲に致し、併せて近安を候ふ。孫文。



5、介石兄鑒

汝爲兄の言によれば、若し長短銃を商團に返還せば、出發費として能く百萬元を得べしとなるが、果して然らば今日の各令を取消し、銃は悉く返還するも差支なかるべしと思はるが、如何なるものなりや。此の點汝爲と協議の上酌量處置されんことを望む。孫文、九月十二日。

6、介石兄鑒

仲愷の言に據れば、武器輸送船の到着せる場合は、金星門内に於て荷揚げし、以て人の耳目を避くる考へなりとのことなるが、余は必ずしも然らずとなす者なり。即ち若し人の耳目を避けんが爲ならば、金星門は甚だ不適當なり。金星門の向ひ側には冷汀關有り、該關には望樓有り且つ警邏船有るを以つて、金星門の附近に到りたる船は悉く一目瞭然たらざるは無きを以つてなり。従つて避け得ざるのみか、却つて吾人の人の耳目を避けんとする心の弱點を他人に曝露することとなり、英艦の干渉を招く結果となるべし。英艦は已に此等の地方の海面を其の勢力範圍と見做し居るを以つてなり。之れ不可となす第一の原因なり。更に金星門外は年々其の水深を減じつつあるを以つて、現在の水路は數年前の海圖に較ぶれば、必ず數尺以上淺くなりたる

べきにより坐礁の恐れ有り。之れ不可となす第二の原因なり。又該處は多額の運送費を要し、風雨に遇ひ盜賊に遇ふ危険有り。之れ不可となす第三の原因なり。故に窮極に於て直ちに黃埔に輸送して公然と荷揚げするを以つて最も上策となすなり。而して之を以つて一つの試験とすれば若し英國が之に干渉するが如きこと有るも、少くとも此の分の武器は入手することを得べく、後日に俟つ必要無かるべし。又若し干渉せざるに於ては、吾人は安心して將來を策することを得る譯なり。然るに若し他の場所に於て荷揚げせば、此の武器も亦入手し得ざる結果となるべし。孫文、十月三日。

7、介石兄鑒

貨物は幾種類なりや、各種類は幾何宛なりやにつき、急ぎ詳細に報告されんことを望む。貨物の使用計畫につき、兄に成算有りや否や。「ボ」顧問の意見は如何なるものなりや。若し共に一定の用途無ければ、韶關に輸送し來り、余に於て其の方法を考ふるも可なり。

別に漢民よりも信書來り居るを以つて、兄の意見を發表して余の参考に供すれば幸甚なり。併せて毅安を候ふ。孫文、十月七日。

8、介石兄鑒



明日若し同盟休業と叛亂との事有れば、商團の銃と弾丸とは、貨物と共に韶關に輸送して革命の用となすべし。蓋し武器有れば何等の心配無く、輸送に其の人無くとも、吾人には之が爲に講すべき方法有るを以つてなり。孫文、十月十日。

9、介石兄鑒

書翰電文共に拜誦せり。仍つて今先づ書翰に答ふ。

銃と彈藥とは韶關に輸送し、斷じて各軍に配せざることとし、以つて我が衛隊を練るに用ふる考へなり。従つて汝爲には一挺をも給與し得ず。若し其の必要有らば、只前回の黃埔の銃のみは彼に給與し得べし。然れども此の八千挺の銃は一挺も分散せしめ得ず。韶關に到着したる上は、之が貯藏の場所は甚だ多し。且つ余が此處に在る以上、何人も敢て來つて掠奪するが如きこと無かるべし。輸送途上の保護に至つては、只黃沙地方のみは注意を要するも、其他の地方は装甲車と數百人とを以つて保護せしむれば可なるべく、之には學生を當つれば宜しからん。黃沙と小坪一帶の地方とは、張民達の軍隊を保護に當らしむる考へなり。又其の方法としては、假りに張が韶關を出發することとして其の軍を停車場に集合せしめ、黃沙の大部分と小坪の小部分との布置完了を待ちて、銃と彈丸とを積込み、學生を同道せしめて來らば可なるべし。更

に資金は黃埔學校を收束し、韶關到着の上重ねて籌畫せば可ならん。

電文に對する答復次の如し。北伐は必ず成功すべきにより、資金無くとも出發し、決して廣東を顧慮せず。兄に望む、速に長洲を捨てて韶關に來れ。某軍は武器を劫奪し、且つ兄を殺さんと欲しつあるを以つて、宜しく暫く之を避け、衛隊の訓練完了を待つて對策を講ずべし。陳賊來攻せば余は彼等と食を爭ふ軍隊を放つて相互に殘殺せしむべく、若し亂を平げ得ざる場合は速に之を避けんのみ。汝爲を邀へ、其の用ふるに足る軍隊を帶同して共に來らしめ得ば、更に好都合なるにより、彼と協議し、其の結果の如何を速に答復ありたし。茲に復し、併せて毅安を候ふ。孫文、十月十一日。



## 第三編 遺書

### 一、國民黨員への遺囑

余、力を國民革命に致すこと爰に凡そ四十年、其の目的は中國の自由平等を求むるに在り。而して四十年の經驗に依り、此の目的を達成せんと欲せば必ず克く民衆を喚起し、且つ世界に於て平等を以て我民族を待つものを聯合し、之と協同奮闘するの要あるを知れり。

現在、革命尙ほ未だ成功するに至らず。凡そ我同志は須く余の著す所の建國方略、建國大綱、三民主義及第一次全國代表大會の宣言に依り繼續努力し、以て之が貫徹を期すべし。最近の主義たる國民會議の開催及不平等條約の廢除は、殊に最短期間に於て之を實現するを要す。之れ至囑するところなり。孫文。

中華民國十四年二月二十四日



證明者

宋 孫 戴 邵 吳 何 戴 鄒 孔  
子 恩 元 敬 香 季 祥  
文 科 廣 冲 恒 凝 陶 魯 熙

### 二、家族への遺書

余、國事に盡瘁せるに因り、家産を治めず。其の遺す所の書籍、衣物、住宅等の一切は、均しく吾が妻宋慶齡に與へて以つて紀念と爲す。余の兒女は已に成長し、能く自立し得るにより、望むらくは各々自愛して以つて余の志を繼げ。茲に囑す。孫文。

中華民國十四年二月二十四日

筆記者  
證明者

汪 精 衛  
宋 子 文  
鄒 恩 魯  
戴 恩 廣  
孫 敬 科  
吳 敬 恒  
邵 元 冲  
何 香 凝  
孔 祥 熙  
戴 季 陶

### 三、「ソヴェエト、ロシア」への遺書

「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會の親愛なる同志よ。余の疾患は不治の病症



である。余の心念は今諸君と我黨及び我國の將來とに向けられてゐる。諸君は自由なる共和國大聯邦の領袖である。この自由なる共和國大聯邦は不朽なる「レーニン」が被壓迫民族の世界に遺し與へた眞の遺産である。帝國主義下に虐げられたる民族は正に之によりて其の自由を保衛し、古代の奴隸、戦争、偏私を基礎とする國際制度の中に於て其の解放を謀るであらう。余は國民黨を遺す。國民黨は余の希望する如く中國及び其他の被侵略國の帝國主義制度よりの解放を完成する歴史的任務に於て諸君と合力共作するであらう。そして運命は余の未遂の事業から引離し、それを國民黨の主義と教訓を謹守する組織ある我が眞正の同志に移交するであらう。故に余は既に國民黨に民族革命運動の事業を進行し、中國をして帝國主義に依つて加へられたる半殖民地状態の羈縛から免がれしむるやう囑附し、この目的に到達するの見地より、余は已に國民黨に諸君との提携を永久に繼續すべきことを命じた。余は諸君の政府も亦從來我國に與へられたる援助を必ず繼續するであらうことを深く信ずる。

親愛なる同志よ。諸君とのこの訣別に際し、余は余の熱烈なる希望を表示したい。この希望は久しからずして曉を破るであらう。即ち「ソヴェエト」聯邦は良友として、又盟國として獨立強盛なる中國を歓迎し、兩國は世界被壓迫民族の自由を争ふ大戦中に在つて、携手並進して以つて

勝利を獲得するであらうことを余は確信する。謹んで兄弟の誼を以て諸君の平安を祝ふ。孫逸仙。

註、此の遺書は一九二五年三月十二日孫文の死と共に發表されたるものなり。



第四編 附錄 孫文主要著作年表並索引

孫文年齡	紀元		名	稱	卷	編	頁
	民國	西曆					
二十七	前二十一	一八九二	興中會宣言		四	一	一三
二十九	前十八	一八九四	興中會章程		三	一	一
三十二	前十五	一八九七	李鴻章に上るの書		七	四	二七
三十七	前十一	一九〇二	倫敦遭難記		四	二	一五
三十九	前八	一九〇四	三十三年落花の夢序		四	二	三九六
四十	前七	一九〇五	中國問題の眞の解決		四	二	一七八
四十六	前一	一九一一	同盟會革命方略		三	二	一九
			同盟會宣言		四	四	一四
			臨時大總統就任宣言		四	三	一九



孫文年齡	紀元	民國西曆	名	稱	卷	編	頁
四十八	二	一九一三	臨時大總統の全國同胞に布告する書		四	四	二二
四十九	三	一九一四	臨時大總統より各友邦に布告する書		四	五	二五
五十	四	一九一五	臨時大總統の陸海軍將士に通告する書		四	六	三一
五十一	五	一九一六	貨幣革命		四	二	三六
五十二	六	一九一七	中華革命黨革命方略		三	三	六二
			袁氏の叛國に對し國民に宣言す		四	一	三三
			討袁宣言		四	一	三四
			第二革命後國民に對する宣言		四	一	三六
			社會建設(建國方略第三章、民權初步)		二	三	四四
			中國存亡問題		四	二	四三
			大元帥受任宣言		四	二	一九

五十三	七	一九一八	陸海軍大元帥就任宣言		二	二	四四
五十四	八	一九一九	心理建設(建國方略第一章、孫文學說)		二	一	一三
五十六	十	一九二一	國際共同中國實業發展計畫書		二	二	一九
			第一次護法宣言		四	一	四五
			物質建設(建國方略第二章、實業計畫)		二	二	一九
			五權憲法		六	一	一三
			如何にして中國實業を發展させるか		四	二	三五
			大總統就任宣言		四	一	四七
			大總統就任後の對外宣言		四	一	四九
			北伐宣言		四	一	九四
			中華民國建設の基礎		四	二	三五
			工兵計畫宣言		四	一	五一







昭和十五年十月三日 印刷  
昭和十五年十月二十日 發行

不許  
複製

發行所

『孫文全集』(第七卷)

定價金壹圓六拾錢

譯者 外務省調查部

發行者 上村哲彌  
東京市京橋區銀座二丁目二番地

印刷者 栗原光三  
東京市下谷區上野山下町二

東京市京橋區銀座二丁目二番地三

第一論社

電話京橋550六四七三番  
振替東京六一八八六番



孫全文集(全七卷)目次

第四卷	第三卷	第二卷	第一卷
宣 言 雜 著 ロ ン ド ン 遭 難 記	革 命 方 略 大 亞 細 亞 主 義 講 演 及 び 談 話 篇 (中)	建 國 方 略	三 民 主 義
既 刊	既 刊	既 刊	既 刊
第七卷	第六卷		第五卷
電 書 遺 附 文 翰 言 錄	地 方 自 治 開 始 實 行 法 講 演 及 び 談 話 篇 (上)	五 權 憲 法 國 民 黨 政 綱 國 民 建 國 大 綱 政 府	講 演 及 び 談 話 篇 (下)
既 刊	本 記 同 次		既 刊





767

169



東 京 第 一 公 論 社 銀 座